

学 生 生 活 編

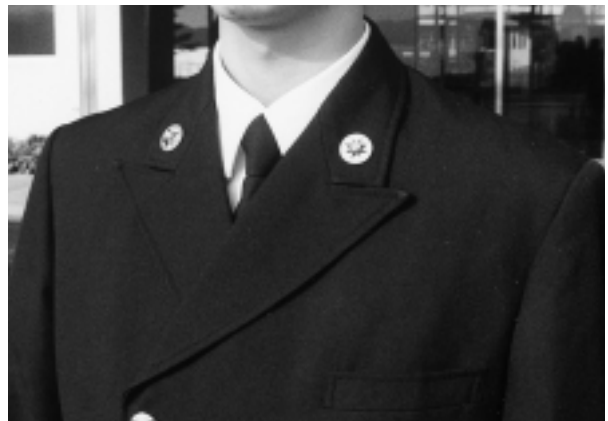
- I 学生生活
- II 訓練
- III 学生・研修生に対する主な講演

I 学生生活

1 主な出来事

S59・3・14 専攻科き章着用開始

専攻科研修生のき章着用は、研修生に自覚と誇りを持たせることを期待し、さらに教育効果を高め、士官として必要な素養の涵養を図る努力など、自己研鑽にも好影響を及ぼすことから、昭和59年3月14日保総教第77号「専攻科研修生き章の着用について」より着用させることとした。この他、大学校生活及び練習船における乗船実習時において、教官と研修生の区分が明確となり、円滑な指導が出来ることや、海外において接触する訪問先官民側の対応の誤りを防止することを目的としている。



専攻科のき章

H元・2・19 第38期扇谷学生がスキーで冬期国体に出場

平成元年1月22日から、芸北国際スキー場で開催された国民体育大会広島県選考会に出場した本科第1学年扇谷学生は、予選第2位に入賞し、成年男子1部Aジャイアントスラロームの広島県代表として出場することとなった。2月14日広島県選手団結団壮行式に参加した同学生は、カムイスキーリンクス（北海道旭川市）で行われた同種目において参加140名中、76位の成績を残した。扇谷学生は、翌年の平成2年大会、翌々年の平成3年大会にも広島県代表となり、3年連続の国体出場を果たした。

H4・12・1 給食の欠食

当大学校は全寮制を採用しており、基本的には食事を寮内でとるのが原則であったが、休日については、選択制としていた。しかし、週休2日制の導入により、週末の校外活動が活発・多様化している現状並びに金曜日の夕食の欠食について学生・研修生の要望が強いことを等を勘案し、休日以外に、金曜日及び木曜日（翌日の金曜日が国民の祝日の場合に限る）について、前週の金曜日までに学生食堂の所定の用紙に記入すれば、欠食できるとした。現在では、2週間前までに所定の用紙に記入し、学生係を通じて給食担当に連絡することにより、夕食に限らず、すべての食事について年休取得の際や団体行事による欠食を認めている。

H5・7・下旬 本科学生有志がセイルトレーニングに参加

平成5年から笹川記念海上保安教育援助基金の援助を受け、日本セイルトレーニング協会所属の帆船「海星（総トン数180トン）」を使用したセイルトレーニングに本科学生が参加することとなった。

このセイルトレーニングは、学生が訓練生として帆船に短期航海訓練に参加することにより、風という自然の力を利用した基本的な操船方法及び慣海性を涵養することが出来ることから初

年度の平成5年には4名の学生が参加した。

参加した学生は口々に、「船務の経験のみならず、船内生活において訓練に参加した様々な分野の人々との交流が出来、社会見聞も広げられ、大変有意義であった。」と感想を述べ、以来、現在まで毎年4名から5名の学生がこのセイルトレーニングに参加している。

H6・4・1 専攻科の入寮制廃止

平成5年度から、専攻科の乗船実習（遠洋航海）期間が、新大型練習船の就役を契機に長期化し、6ヶ月の研修期間のうち、在寮期間がわずか約2ヶ月（従来は3ヶ月）という短期間になったこと、かつ、乗船実習期間をはさみ、在寮期間が大きく分離されたことから、入寮制がもたらす教育効果について、抜本的見直しを迫られるようになった。これまで、入寮制で行ってきた「相互啓発」及び「初級幹部海上保安官としての心構えの修得」については、長期化、かつ、充実した乗船実習においても十分可能となり、同じく「勉学環境の確保」についても、昨今、社会の生活環境が向上し、住宅環境、食生活も一段と豊かになったことを考慮すれば、わずか2ヶ月間という短期間、あえて入寮制をとらなくても、教育上の支障は特段見あたらない。このような状況を勘案すると、専攻科の入寮制を維持するよりも入寮制を通勤制に転換し、実社会生活を身をもって体験させることの方が、幅広く柔軟性のある人間性を涵養する上で、より高い教育効果が期待できることから、海上保安大学校規則第24条を改正し、平成6年度から、専攻科の入寮制を廃止し、通勤制とすることとした。

H7・8・18 三ツ石寮の自習室拡張工事実施と寢室の定員変更

本科学生に対し、恵まれた効率的な勉学環境を確保するとともに、海上保安庁の幹部職員として必要な規律、統率力、協調性、旺盛な責任感等を体得させるため、各学年1人の4名構成の自習室及び班体制を基本とした全寮制をとっている。しかしながら、昭和54年に完成した現在の三ツ石寮においては、学生一人当たりの居住スペース（約8.5平方メートル）が、総務庁住宅統計調査による国民一人当たりの居住スペース（昭和53年12.8平方メートル、平成2年27.5平方メートル）及び防衛大学校（約11平方メートル）と比べても狭隘なものとなっており、核家族化が進み恵まれた教育環境（個室の勉強部屋）に育ち、快適さを求める最近の若者にはプライバシーの確保の観点からも満足し得ない状況となっていた。このため、学生一人当たりの居住スペースを拡大し、居住空間の改善を図る必要があるとの考えにより、三ツ石寮の2階から4階の自習室を改造し、三つの自習室を二つにすることにより床面積を1.5倍に拡張し、さらに各寢室のベット数を減らすことにより寢室の定員を14人から12人に削減することとした。

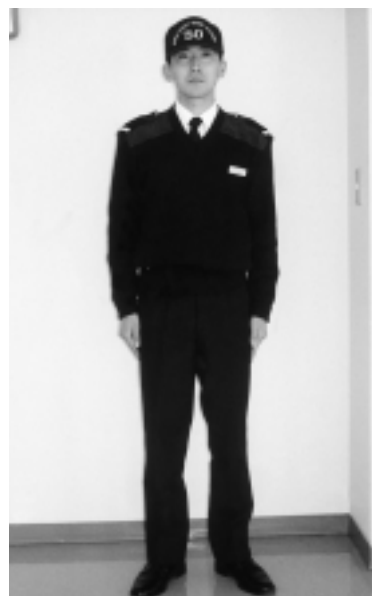
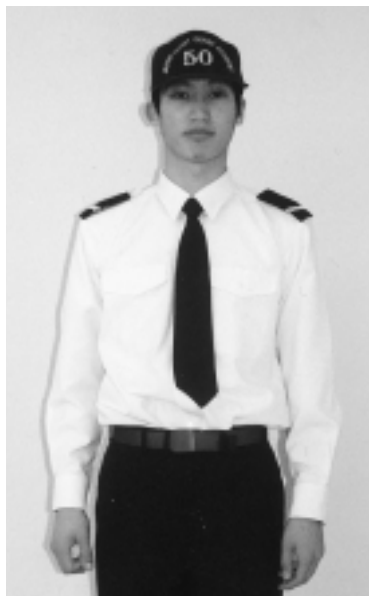
寢室の定員削減は、専攻科研修生が通勤研修となった翌年の平成7年4月から実施され、自習室の拡張は平成7年の夏休みを利用して改修工事が行われ、夏休みが明けた8月末から、学生達は拡張された自習室で快適な寮生活を送ることとなった。

H9・10・13 携帯電話の持ち込み

携帯電話が社会的に急速に普及してきたことに鑑み、団体規律の維持と騒音に配慮することを前提として、外出・外泊時等における緊急連絡手段の確保や社会的マナー修得のため、携帯電話の持ち込み及び使用を認めることとした。使用にあたっては、寮以外の施設では認めないものとし、平日の使用については午後5時から消灯巡検用意時まで、休日については午前6時30分から消灯巡検用意時までを使用時間とした。また、寮内へ携帯電話を持ち込もうとする学生・研修生は、学生課に届け出ることを義務づけた。

H12・4・1 本科学生の服装に関する試行

本科学生及び研修生は、冬季期間中、原則として当直勤務、課業整列、教室授業等において第一種制服を着用している。本科学生においては、在学中に第一種制服が2着貸与されているものの、使用頻度、服地の関係等から相当手入れしても汚損、傷み等が著しい状態であった。また、教室授業中、担当教官の許可を得て、第一種制服の上衣を脱いでいることが多く見受け



られ、制服の中に着用しているセーター、カーディガン、ベスト等の色も様々であることから、教官の中には服装の斉一を望む声もあった。そのため、訓練教官会議で検討した結果、当面、訓令等の改正を要望せず、細則等の規定に基づいて行うことができる最小限の措置で対応することとし、着用する場合には制服と混用しないことを条件として、上衣（学年き章付きセーター）、ズボン及び期（学年）を表す帽子の組み合わせを着用しても差し支えないとした。

これにより、学生や訓練教官が室内で授業中または執務中に上衣を脱いで講義を聴いたり、または事務をとったりしている現状を追認し、もって、学生の第一種制服の損耗等の防止、上衣を脱いだ際の服装の斉一を図るほか、学年区別の明確化等によって本科学生の上級生としての自覚の醸成等教育訓練上の極めて高い効果が期待できるものとして現在に至っている。

H12・10・27 臨床心理士によるカウンセリング開始

従来、当大学校における学生等の相談については、訓令による職員相談室（相談室長：総務課長）、訓練教官による面接指導教官制度及び学習上の問題について助言を与える学級担任が、その受け皿として用意されているほか、ゼミ教官・特研教官等が、学生等に持ちかけられた相談に個別に対応している。これらの教職員は、本来必要とされるべきカウンセリングに関する専門的知識を有しておらず、また相談自体が付随的業務となり易い側面があることから、必ずしも十分な体制が確立されているとは言えない現状にあった。

一方で、少子化傾向及び核家族化といった社会的風潮を背景に、当大学校に入学してくる学生の気質にも変化が生じてきていることから、入学前後における生活環境の変化に順応できない学生も存在することが危惧されるところであった。また、他方においては、メンタルヘルス対策について、近年官民を問わず社会的にその重要性が認識され、教育現場や公務員の職場等においても積極的な施策が展開されている状況を鑑みると、当大学校において心理学等の専門的知識を有するカウンセラーによる適切な学生相談を実施することが必要不可欠であると考えられた。さらに、最近問題となっているセクシュアルハラスメント対策の一環として、特に女子学生が、教職員以外の者に気軽に相談できる窓口の設置が望まれるところであった。

以上のことを踏まえ検討したところ、広島大学教育学部心理学科に在籍している臨床心理士を、当大学校のカウンセラーとして採用することとし、毎月2回のペースでカウンセリングを開始することとした。

2 学生の車両の運行について経緯

開校当時の資料はないが、昭和35年3月31日、当大学校で使用していた1号車が解役し、昭和36年、当時2学年であった第10期生が結成した自動車同好会に寄付され、学生の車両保有が始まった。昭和39年になり、学生の単車の持ち込みが目立つようになり、自動車も持ち込みの兆候が出始め、訓練部内でも、第一術科学校や防衛大学校の現状調査を実施し、昭和40年には、単車等調査や免許証取得者調査を実施した。

昭和45年になると、車両事故が発生するようになり、昭和47年には学生会長から訓練部あて「車両等の校内持ち込みについて」が提出された。これは、校内保有が認められていないにもかかわらず学生の車両校内持ち込みが増加していたことから、学生が自主規制案を策定、訓練部がこれを認めた。自主規制の内容は、車両保有は免許証取得者に、また、車検済み車両に限定、校内の車両台数を制限し、本科及び専攻科16台、特修科5台、単車29台とした。

昭和48年には、車両の事故だけでなく、無免許スピード違反を起こすなど、事故や違反が目立つようになり、寮周辺の放置車や無断持ち込み車両が増加したので、昭和55年5月、学生が自主規制の見直し案を策定し、訓練部がこれを認めた。今回の見直しでは、年齢が満20才以上の者に限定し、本科及び専攻科に対して46台、特修科及び語学研修に対して25台の校内車両持ち込みを認めた。しかしながら、交通事故及び違反が発生したため、昭和57年3月31日をもって、学生所有車両の校内駐車を禁止する（昭和57年3月2日保大学第7号）とともに、学生に対し呉市内及び近郊に於いて車両を保持しないように勧告した。そのような状況の中でも、人身事故、自損事故等、禁止勧告にもかかわらず、事故や違反が発生したため、同年12月8日、訓練教官会議を開催し、学生に対し厳しい態度で望むことを伝え注意喚起したところ、同年12月10日、学生会にて車両運行しないことを決議した。また、同年12月22日付けで、訓練部長名で、学生の保護者に対し協力依頼文書を発送した。

昭和58年に入り、訓練教官会議において車両運行保有の細則について討議し、海上保安大学校学生等生活規則を改正することで大学校長の了解を得て、昭和58年3月15日から、海上保安大学校学生等生活規則第15条の2（私物の制限）で、「学生等の車両の保有又は運行を制限する」ことを盛り込んだ。

その後、学生に校外保有させないための勧告及び協力依頼に実効がなかったことから、更に議論を重ね、昭和62年4月には、6つの条件を満たした場合についてという条件付きで校外保有を承認することとし、保有するに当たっては、訓練部長の承認を受けて車両を運行することが出来るとした。その条件は、①3学年の後期又は4学年であること、②交通事故の加害者（自損事故を含む）にならなかったことがないこと、③懲戒処分を受けたことがないこと、④道路交通法違反により免許停止処分を受けたことがないこと、又は、罰金を科されたことがないこと、⑤1人1台に限ること、⑥車両を保有する目的が主として課外活動を円滑に遂行するためであること、であった。その他、家族の所在地で保有することは認めており、レンタカーを使用することは不可能ではなかった。

昭和63年、大学校長諮問により、車両運行問題の検討が開始され、大学校長の意見は、「今は車社会で4年間乗れないというのはおかしく、特殊な社会にすべきではない。」及び「海上保安大学校構内における自家用自動車の運行の規則及び駐車の調整に関する規則（昭和52年3月26日達第8号）で保有を認めておいて、訓練部長達でそれを少し制限するならともかく、全面禁止しているのは筋が通らない。」ということであった。そのため、平成元年7月4日、海上保安大学校学生等生活規則実施細目が改正され、過去の事故や違反の処分を受けた場合を除き、保証人の同意書を提出し任意保険に加入した車両であれば校内及び校外の別なく車両を保

有できるとして、学生の車両保有が大幅に緩和された。ただし、学生は自主的に、1学年前期の車両保有を禁止した。

平成5年11月20日に本科学生2名が死亡する事故が発生した。訓練部としては、学生の車両の安全運転について、日頃から注意喚起するとともに、定期的に呉警察署による交通安全講習会を開催する等交通意識の高揚に努めてきたところであり、開校以来初の交通死亡事故者を出してしまったことは、痛恨の極みであった。以後は、二度とこのような惨事を繰り返さないためにも、強力に学生の交通安全意識の高揚を図り、交通事故防止のため万全を期することとした。12月に入り車両問題に何らかの結論を出すことを目標として、訓練部と学生会との話し合いが持たれたが、議論は平行線をたどり、結局、訓練部側の意向で学生を説得することとなった。事故のリスクを考えれば、全面禁止がもっとも確実で安全であるが、車社会という実情から考えると、大学校と現場でギャップがありすぎるのも問題であり、過去の経験から、全面禁止にしても若者の車両に対する欲求は強く、隠れてでも車両に乗ることも考えられる。また、今回はほとんど部外者が絡まなかったが、部外者に犠牲が及べば大学校の責任が問われることも十分予想されることから、やみくもに全面禁止に走るのではなく、学生の理解が得られる実効性のある対策を立てる必要があった。

そのため、訓練部としては車両保有及び運行については、3学年以上とし、1及び2学年は長期休暇中も含めて一切運行を認めず、レンタカーの使用も一切認めないとした。また、免許停止処分を1回受けた者は、3ヶ月の運行禁止、免許停止処分を2回受けた者は、卒業まで運行禁止とすることとした。学生会としても、定期的な累積点数表の提出、車両委員会の行う車両点検の実施、車両保有者の交通安全実技講習会の義務化などを実施することとした。

3 海上保安大学校学生等生活規則改正関連

(1) 課業行進

課業行進は、昭和39年頃から週1回課業整列終了後教室まで行進していたが、海上保安大学



寮前広場での課業整列

校学生等生活規則が制定された昭和54年には同規則において、課業整列時「月曜日は当直交代、容儀点検、課業行進を行う。」という形で明記され実施されてきた。しかし、基本動作の練度向上、指揮統率法の訓練のため、昭和58年3月15日達第16号により、毎日の課業整列終了後行うこととされ、以後、音楽とともに行進する現

状が制度化された。
平成9年、課業整列の場所を週2回（火・木曜日）、情操教室に変更し、所見発表を定期的かつ確実に実施することとし、そのため、情操教室で課業整列を実施する週2回は課業行進を実施しないものとした。

状が制度化された。
平成9年、課業整列の場所を週2回（火・木曜日）、情操教室に変更し、所見発表を定期的かつ確実に実施することとし、そのため、情操教室で課業整列を実施する週2回は課業行進を実施しないものとした。



情操教室での課業整列

(2) 巡検の変遷

- イ 本館が完成し、旧施設の取り壊し及び転用が行われたこと等により、第一巡検用意及び第一巡検を廃止し、第二巡検用意を巡検用意に、第二巡検を巡検に改めた（昭和53年1月31日）。
- ロ 昭和60年7月に講堂兼体育館が完成し、昭和62年2月に講堂兼体育館の保安、使用後の状況確認等を行うため、自転車置き場及び端艇庫前（舟艇係留状況等を含む。）の巡視を含めた第一巡検（1900）が日課表に新設され、従来の巡検（2230）が第二巡検として整理された。以後、第一巡検は、1900から当直教官及び当直学生（正直全員）により実施されている。
- ハ 平成3年10月に図書館が完成し、平成5年4月に図書館の利用時間が閉館後（1830）から2145まで延長された。以後、図書館の保安、使用後の状況確認等を行うため、2145に当直教官及び当直学生（正直全員）による点検・施錠を実施している。
- ニ 平成4年9月に、体育館の使用時間の延長について学生から要望があり、またサークル活動活性化のため、活動時間を確保する必要があることから、試行的に講堂兼体育館の使用時間が閉館後から2130まで延長された。以後、体育館の保安、使用後の状況確認等を行うため、2130に当直学生2名による点検・施錠を実施した。しかし、1900に実施する第一巡検では、使用後の状況確認という本来の目的が達せられていなかった。そこで、平成7年12月から、第一巡検を廃止し、第二巡検を消灯巡検とし、講堂兼体育館及び図書館の保安、使用後の確認等については、これを引き続き当直教官及び当直学生で担保していく必要があることから、講堂兼体育館の使用時間及び図書館の利用時間を考慮し、2130から当直教官及び当直学生（正直全員）で、自転車置き場、講堂兼体育館、図書館、ポンド及び端艇庫の順で巡検を実施することとした。
- ホ 平成13年5月には、こじま栈橋付近やグラウンドが巡検経路に含まれていなかったことから、改めて巡検経路を見直し、試行としてであるが、自転車置き場、図書館、講堂兼体育館、こじま栈橋、グラウンド、寮前広場、ポンド及び端艇庫の順で、巡検を実施することとした。

(3) 入浴時間の変更

土曜日、日・祝日及び指定日における入浴については、昭和62年度から、必要と認められる場合にはシャワー用簡易ボイラーを使用して入浴できることとしていたが、昭和63年度から土曜日、日・祝日及び指定日においても時間帯を定めるほか、特に制限を設けず入浴をさせたところ、学生当直業務、指導面、燃料費等にも特に支障なく遂行され、制度としても毎日入浴できることが確保できるので、毎日利用できる時間を指定することとした。

また、平日の入浴時間、特に1800～1845頃の風呂の混雑を解消するため、入浴時間を第二巡検用意時まで延長することとし、土曜日、日・祝日及び指定日についても同様に延長することとした。その場合、簡易ボイラーの使用については、蒸気送気のない土曜日、日・祝日及び指定日は、従来通り入浴開始時間までに当直学生に点火させ、第二巡検用意時に消火を確認させる。平日は、蒸気送気終了後各自が点火及び消火し、第二巡検用意時に当直学生に消火を確認させることとした。

その他、平日の風呂への蒸気の送気は従前どおりとし、本科学学生・研修生には出来る限り蒸気送気中に入浴し、水、燃料の節約に努めるとともに、1900以降、自習時間となっていることに十分注意することとした。（平成元年5月11日）

(4) 日課表の改正

平成4年11月4日、完全週休二日制の実施に伴い日課表が、月～木曜日、金曜日、土曜日、及び日曜日に区分された。

(5) 大掃除を行う曜日を金曜日から月曜日へ変更

土曜日、日曜日の寮内では、外出・外泊のため、組織だった掃除が行えず、各人の任意の意志により掃除が行われており、完全週休二日になったこともあり、月曜日の朝の寮内は、雑然とした状況にあった。このため、月曜日に大掃除を行うこととした。(平成6年9月1日)

(6) 海上保安大学校研修科研修生生活規則の制定

海上保安大学校研修科研修生生活規則は、海上保安研修センターを使用するに際して、平成7年4月11日付けの副校長事務連絡として暫定的に施行されたものであった。海上保安研修センターの管理に関する規則と相まって、管理面及び運用面で改善を図ってきたところ、研修生の健全かつ秩序ある研修生活は良好に維持されており、研修生による自主運営を基本とした現行の枠組みに一定の評価が得られたものと判断し、制定された。(平成7年12月1日)

(7) 下宿の規制

本科学生の校外における下宿については明文化した規定がなく、最近では経済的に余裕があること及び親密な人間関係形成を避ける風潮があることを背景として、各学年で下宿の取得が増加する傾向にある。全寮制の当大学校では、下宿という概念は本来例外的なものであり、上級生指導の実効を図るという観点からも、入学間もない時期から下宿を取得することには問題がある。

一方、専攻科が通勤研修になったことにより、4学年については、あらかじめ下宿を用意することの必要性が生じていた。

よって、下宿に関する規定を明文化し、3学年以上に限り許可することとした。(平成11年3月26日)

4 課外活動

(1) 補課活動規則制定までの経緯

昭和26年の開学当時、正課を補う意味で補課を実施し、補課の時間には、補修授業や作業、運動を実施しており、サークル活動としての形態は整えていなかったが、学生の自発的な活動として文化部（文芸、ダンス、写真、音楽、映画、ラジオ、演劇、自然科学、化学、外語、社研、出版）と運動部（サッカー、野球、バレーボール、テニス、卓球、バスケット、ラグビー、ボート、柔道、剣道、バドミントン、水泳、体操、ボクシング）が存在した。昭和27年、大学校が呉に移転すると、全学生は、必ず運動部に所属しなければならず、運動部の設立及び廃止は、当時の体育担当教官の許可を必要とした。しかし、学生による自主的体育活動を通じて心身を鍛え、リーダーシップの養成を図るという目的で行われたが、対外試合も許可されておらず、活動の実態はあまり芳しい状態ではなかった。そのため、1500に補課整列を実施して出欠をとったり、教官が活動を監督したり、寮や教室を回り、補課活動に出ない多くの学生を呼び出したりしたが、学生には不評で、教官の負担も大であることから長くは続かなかった。

昭和30年代に入ると、各運動部の学生連盟への参加が認められるようになり、学生自身の自主的活動が盛んになり、運動部の設立や廃止についても、学生会が決めたことを大学校側が追

認するようになった。そのような中、「海上保安大学校学生等生活規則（昭和30年2月8日達第4号）」が制定されたが、補課に関する規定は盛り込まれなかった。このような混乱期に活動する運動部も変遷を繰り返しており、昭和31年3月には、バレーボール、バスケット、サッカー、端艇、テニス、剣道、ラグビー、柔道、卓球、野球、水泳、ヨット、及び特別部としてブラスバンドの計13部があった。しかし、学生会では、学生数の多かった第2期生が卒業し、練習することも難しい運動部が生じていたことから、4月の時点で、バスケット及び水泳が廃部となり、将来は6部に縮小する方針を議決したが、実効性は疑わしいままであった。また、教授会においても、同様の意見が出され、32年度当初には、さらに3部減らし8部にすることとした。

学生会の中では、相変わらず、縮小賛成派と反対派の意見が対立していたが、昭和33年12月に運動部を一旦解散し、昭和34年度から新設を希望する部を改めて募ることとなった。このような紆余曲折を経て、昭和34年度から、運動部を柔道、剣道、サッカー、バレー、ヨットの5部に絞り、カッターは端艇委員会を中心とする全校選抜方式に、またこれまで運動部と同等の活動が認められていたブラスバンド部は文化部扱いとなり、運動部との掛け持ちが必要となった。このような中、昭和33年度の秋季リーグ（2部）で優勝し1部に昇格していた野球部は、例外として出場した昭和34年度春期リーグ（1部）で準優勝し、校内問題もさることながら、対連盟の関わりもあり、完全解散はできず、運動部縮小問題は、解決の糸口を見つけることが出来ず、混迷したままであった。

昭和37年度に運動部として認められていたのは、柔道、剣道、サッカー、ヨット、野球、これにブラスバンド、端艇委員会であり、これらの他、学生の自主的な活動の集まりとして、新聞会、葦火（あしび）編集会、社会問題研究会、法学研究会、映画同好会、写真同好会、自動車同好会、空手同好会、詩吟同好会、謡曲同好会、尺八同好会、絵画同好会、ハーモニカ同好会、釣り同好会、帆走同好会、音楽鑑賞同好会、軽音楽同好会、海の友の会、無線同好会、バスケット同好会などの会が乱立していた。

そのような中でも、補課の運営については、全面的に学生会に委ね、運動部への全員参加を基本路線とすることを前提に、大学側は活動についての干渉は控えていた。しかし、昭和48年頃になると、団体や組織に対する認識が薄くなり、個人の主義の考え方が極めて一般的になるに及び、大学側としても補課活動のありかたを再確認することとし、いずれの運動部にも所属しない学生に対し、働きかけを始めた。その中で、昭和47年から昭和48年には、「学生規則」制定の動きがあり、その中で補課について定められていたが、この学生規則は日の目を見なかった。当時の部活動については、柔道、剣道、サッカー、ヨット、野球、端艇、バスケットボール、陸上、空手の9の体育部とブラスバンドがあり、この他に同好会として、詩吟、無線、尺八、潜水、テニス、新聞、水泳などの同好会が存在した。

昭和49年12月野球部顧問教官が練習を指導中、「左足アキレス腱切断」の事故に遭ったため、公務災害として認定すべく作業を進めたが、「補課活動、顧問教官等に関する明確な規定がない」等の理由から、公務災害の認定がなされなかった。これに加えて、学生の補課活動における負傷事故も生じていたことから、補課活動を制度化し、学生の授業終了後の勤務内容の明確化などを求めた「補課活動の運営に関する達」を制定する機運が高まり、学生及び教職員等が補課活動に負う災害について、これを公務として極力救済するとともに、いわゆる補課時間帯の有効な利用をも図らしめるものとし、各グループ毎に意見を求めた上で、昭和54年3月に「海上保安大学校補課活動規則」及び「海上保安大学校補課活動実施細目」をそれぞれ定めた、更に各体育部の安全管理準則を制定した。これにより、学生に体育活動を義務づけ、柔道、剣道、サッカー、ヨット、野球、端艇、バスケットボール、陸上、空手のいずれかの一つの部に

所属しなければならないとした。また、創設以来運動部と同様の活動を認められていたブラスバンドについては、部員数が5名となり、活動も行っていなかったことから、例外規定を廃止した。しかし、当時も、いずれの部にも所属していない学生がおり、この指導には苦慮した。

(2) 補課活動規則からサークル活動に関する達の制定までの変化

昭和56年12月、補課活動に文化的活動を加えることの試行実施要綱（昭和56年11月25日保大第84号）により、学生の補課活動として、従来の体育活動に加え、学問的真理探究あるいは調和のとれた人格形成を図ることを目的とするゼミナールないし教養活動を行わせることの可否を検討することとした。試行期間は、昭和56年12月1日から昭和57年2月28日までとし、学生は体育部に併せて文化部に所属し、毎週火・木曜日には、文化活動を行うものとした。ゼミナールについてはA群、文化、社会、芸術等の一般教養をB群とし、A群B群あわせた32種類の文化部から選択することができた。この結果を踏まえ、昭和57年3月30日達第3号により、補課活動規則を一部改正した。この改正は、補課活動の目的を、心身の錬成を図るのみでなく、教養文化の向上に資するとした。これに加えて、さらなる補課活動の活性化を目指し、顧問教官の指名は、これまでどおり大学校長が行うが、補課活動規則に関する必要な細目は、従来の訓練部長に代わって、教頭が定めることになっていたが、実際に細目が改正されることはなかった。このため、実際に文化部が承認され、活動したことはなく、運動部に水泳部が追加承認され、運動部が10部に増加したに過ぎなかった。

昭和63年7月13日当時の三宅大学校長から教授会に対し、補課活動規則の見直しについて検討するよう話があり、特別委員会である補課・車両に関する検討委員会（委員長廣瀬教授）を設置した上で、教授会、教官会のみならず、学生会からも意見を聴取し、結論を出すこととなった。特別委員会は精力的に検討を進めたが、そもそも補課活動規則が、寮内でブラブラしている学生を排除するために制定されたものであること、及び当時実施されたカリキュラム改正に関連して「ゆとりある教育」を阻害するものになること（大学校長談）、等の意見が通され、昭和63年9月30日付けで、補課活動規則は廃止されることとなり、補課活動は、日課表中に、「体育・教養文化活動、自習等を行う。」と記されるのみとなった。

その後、補課活動規則を廃止した形で3年余が経過し、訓練部において調査したところ、学生の体力低下、入室者の増加、教官指導の困難などが指摘されるようになった。このため、これらの問題を解決し、今後の適正な補課活動の実施を図るため、平成4年2月、補課活動の現状を客観的に把握し、より活発化する方策を検討することとなった。訓練部が作成したアンケートを、全教官全学生に配布し、これを考察することとなった。

この結果によれば、体育部活動だけに偏らず、教養文化活動等も取り入れられ、多様化しているが、活動内容は好ましい状況ではなく、体育部活動の対外試合の結果は低迷し、同好会活動やゼミ活動は、体育部と同様に行える状況にあるにもかかわらず、盛んに行われている様子は認められないことから、大学教育の大きな一つの柱と考えられる補課活動の現状としては好ましくない状態であった。当時は同好会が乱立し、体育部は少林寺拳法部が追加され11部、同好会については、ラグビー、バレーボール、テニス、逮捕術、バドミントン、フルコンタクト空手、綱引き、応援団、ブラスバンド、軽音楽、射撃、美術、語学、写真、尺八の15の同好会が存在し、同好会の名簿上の参加のべ人数は、全学生の数を上回っていたが、兼部の者が多く、実際の活動も構成員が好きな時間に活動している場合が多く、集団の中での活動とはいえないものであった。また、体育部についても、ほとんどの学生がいずれかの部に籍をおいていたが、部の体裁をなしていない部が多かった。

このため、大学校の教育目的の完成に資するため、学生により自主的に組織され、訓練部に

届出された団体をサークルとし、サークルが長期的かつ継続的に行う課外活動をサークル活動として、新たに海上保安大学校学生のサークル活動の指導に関する達（平成4年9月2日達第3号）を定めた。この際、サークルとして届けられた団体のうち、部として認められたのは、前記11部の中で、部員不足から陸上部が同好会となり、バレーボール、ラグビー、ブラスバンドの3つの部が、新たに部として認められ、部は13部となった。また、同好会として、陸上、応援団、射撃、潜水、美術、写真、軽音楽、尺八、綱引き、逮捕術、フルコンタクト空手、テニス、刑事法研究会の計13同好会が届けられた。そのような中、平成5年3月には、ブラスバンド部は、名称のもう一つの看板として、海上保安大学校音楽隊を名乗った。

平成6年には、サークルの指導に関する達の運用から2年経過したものの、サークル活動が活性化したとは言い切れず、再度訓練部で協議した結果、クラブと同好会の区分けを明確にすることにした。クラブについては学生会及び訓練部から認められた補課活動時間に基本的に毎日実施するもので訓練部に届け出る必要があることとし、同好会は、訓練部として必要な配慮をすることとした。平成6年2月に従来からあるクラブとして整理されたのが13部、クラブ昇格の猶予を得て訓練部にサークル届を出した同好会は、ブラスバンド、応援団、フルコンタクト空手、軽音楽、テニス、卓球、クラブ昇格の猶予を得ていないがサークル届を出したのが刑事法研究会、サークル届を提出しなかった同好会として、尺八、写真、美術、天文があった。

平成6年3月、サークルの部への昇格、降格、廃止については学生会に任せ、部への昇格を希望しているフルコンタクト空手、ブラスバンド、応援団、テニス、卓球、軽音楽は6月までに結論づけるとしたが、最終的に平成8年には、フルコンタクト空手、テニス、陸上が部として承認され、ブラスバンド、応援団は、部活動としては活動しなくなった。しかし、その後、部員不足のため、陸上部及びフルコンタクト空手部は廃部となり、平成13年度のサークル活動は以下のとおりとなった。

・サークル時間中に活動できる部活

カッター、空手、剣道、サッカー、柔道、少林寺、水泳、テニス、バスケットボール、バレーボール、野球、ヨット、ラグビー

（但し、カッター部は兼部者が主で、年間を通じては活動していない。）

以上13部

・週に1度活動

刑事法研究会、学生音楽隊（サークル活動時間以外も活動）

・サークル時間以外に活動するものの一部

学生音楽隊、応援団、邦楽同好会、行政法ゼミ

(3) 各サークルの紹介

1 剣道部

イ 創部年 大学校開校時

ロ 過去の最高成績

(イ)本科第10期 竹城 義典 中四国学生剣道選手権大会 個人戦3位

(当時3段：本科4学年) 全日本学生剣道選手権大会 出場

(ロ)本科第31期 遠山 純司 中四国学生剣道選手権大会 個人戦ベスト8

(当時3段：本科3学年) 全日本学生剣道選手権大会 2回戦出場

(ハ)本科第32期 原田 樹佳 中四国学生剣道選手権大会 個人戦ベスト8

(当時3段：本科4学年) 全日本学生剣道選手権大会 3回戦出場

ハ 近年の最高成績

本科第47期 大谷 雅則 中四国学生剣道選手権大会 個人戦ベスト32

ニ 近況

現在、剣道部は、月曜日から金曜日までの毎日、2時間程度練習しており、10名の部員は団結して頑張っている。部員のほとんどが大学入学前に剣道を経験しているので、基本練習を元に応用技を練習している。また、呉警察署や海上自衛隊の道場で稽古をつけてもらうなど、自己錬成に努めるとともに、部の雰囲気盛り上げ、心身育成に努めている。

最近では、平成13年12月に行われた中四国学生新人大会において、昼夜を問わず稽古に励み、気力十分で試合に臨んだ。しかし惜しくも強豪山口大学に敗退を喫したが、周囲から「県内でも海保大生程気迫のこもった剣道をする学生は少ないだろう」と言わせる程まで成長した。またこのほど本科第50期野中学生在県内最年少（19歳8ヶ月）で4段に昇段し、彼を中心としてさらなる成長が期待されている。

2 柔道部

イ 創部年 大学校開校時

ロ 過去の最高成績

広島県学生柔道優勝大会第1回（昭和30年）から第6回（昭和35年）団体準優勝

ハ 近年の顕著な成績

平成9年 中国四国柔道優勝大会 団体 ベスト8

ニ 近況

柔道部は、現在男女合わせて12名で活動している。活動内容としては、課業後のサークル活動時間に活発に活動し、中四国の大会、広島県大会、呉市民大会などの試合へも積極的に参加している。また、週に1度、市野講師（本科第10期生）に指導を仰ぎ、通常は打ち込み、寝技、乱取り等の基本練習を中心に稽古に励んでいる。

現在、部員には体格の大きい者がおらず、団体戦などでは苦戦を強いられている。この体格差を埋める技術を習得するのが、課題であり、この課題を念頭に置いてこれからも日々練習に打ち込み、精進している。

3 サッカー部

イ 創部年 大学校移設時頃

ロ 過去の最高成績

昭和63年、平成元年 広島県学生サッカーリーグ第2部 優勝

昭和62年から3年連続1部との入れ替え戦に挑戦

ハ 近年の顕著な成績

広島県学生リーグ第2部に参戦中

ニ 近況

サッカー部は第2期生から対外試合を開始し、昭和49年頃、広島県学生リーグが発足したことからその2部に所属した。広島県学生リーグが発足する以前には、西日本リーグ及び呉の実業団に所属していた。現在は、個人技を基礎とし、ドリブル、パスを多彩に組み合わせ、一瞬のひらめきとリズムでゴールに向かい、トータルフットボールを目指した練習を毎日行っている。

ホ その他

第17期及び第18期は遠洋航海中、オーストラリア海軍、ニュージーランド海軍と交流試合を実施した。

昭和62年 マツダ（現サンフレッチェ広島）と試合を実施

昭和63年 内閣総理大臣杯 中国予選に出場

4 野球部

イ 創部年 昭和26年、教員チームと共に学生が野球を始める

昭和27年、大学校移設時、学生チームを発足。野球部として活動開始。

ロ 過去の最高成績

昭和33年 西日本準硬式野球大会出場（鹿児島、鴨池）

昭和56年 第33回全日本大学準硬式野球大会出場（福岡、平和台）

昭和57年 第34回全日本大学準硬式野球大会出場（福井、県営球場）

昭和58年 第35回全日本大学準硬式野球大会出場（埼玉、西武球場）

ハ 近年の顕著な成績

中国地区大学準硬式野球 2部リーグ 参戦中

ニ 近況

現在は野球部創立当初と違いグラウンドも広く、ネットも完備された良い環境の下練習に励んでいる。激しく、しかし、ヤジを飛ばさない紳士野球をモットーに、日々泥まみれになりながら、白球を追いかけている。さわやかな海風の吹く、この若葉のグラウンドでさわやかな汗を流し、日々精進している。

5 ヨット部

イ 創部年 昭和27年頃

ロ 過去の最高成績

昭和37年 第27回全日本学生ヨット選手権スナイプ級団体出場

（広島宇品）第10期大浜、坂手、朝倉他

昭和43年 第33回全日本学生ヨット選手権A級ディンギー団体出場

（琵琶湖大津）第15期和田、矢羽野、第16期黒川、第17期松浦

昭和47年 第37回全日本学生ヨット選手権A級ディンギー団体出場

（福岡小戸）A級ディンギー最後の大会

第19期宮内、石橋、第21期片山、三村

スナイプ3艇、A級2艇、470級1艇の変則開催

昭和59年 第49回全日本学生ヨット選手権スナイプ個人戦出場

（愛知蒲郡）第31期矢野、第33期安尾組

平成12年 第65回全日本学生ヨット選手権スナイプ個人戦出場

（愛知蒲郡）第47期笠井、第49期木原組

ハ 近年の顕著な成績

平成5年 第34回宮島一周ヨットレース 470級優勝

平成7年 第41回瀬戸内海横断レース 470級優勝

平成12年 第65回全日本学生選手権個人戦出場

ニ 近況

「目の前が海」という恵まれた環境にありながら、「風が吹かない」というジレンマにあるのは、創部以来変化はない。艇についても、数年前は非常に恵まれた状況にあったが、現在のヨットの寿命から言えば、すでにレース艇の域を超えている艇しか残っていない。そのような中、個人戦では16年ぶりに全日本に出場することができ、OBの声援に改めて

感謝している。艇の古さを補うため今年度新古艇ながら470級を1艇購入して、団体戦での全日本出場を目指し、日々練習に励んでいる。

ホ その他（交流活動）

- 昭和33年 他校のヨットの格納と管理に無料で協力
- 昭和47年 ヨット教室（呉市教育委員会主催）開催
以後、現在まで毎年開催
- 平成2年 ヤマハからコーチ招聘（箱守氏）
- 平成5年 アジアヨット選手権大会運営に参加（宮島包ヶ浦）
- 平成6年 第12回アジア大会運営に参加（広島観音ヨットハーバー）
ダイヤモンドセイルからコーチ招聘（高桑氏）
- 平成7年 全日本ヨット選手権競技運営に参加（音戸大浦崎）
- 平成8年 広島国体ヨット競技運営に参加（呉阿賀）
- 平成12年 第65回全日本学生ヨット選手権競技（団体戦）運営に参加
（広島ベイサイドビーチ坂）

6 空手部

イ 創部年 昭和40年

ロ 過去の最高成績

- 昭和43年 第6回中四国学生選手権 組手団体準優勝
第15期田原・松岡 第16期鈴木・尾野・橋本
- 昭和51年 第14回中四国学生選手権 組手団体準優勝
第23期堀田・佐藤・仲尾・渡部・崎山、第24期福井・中村・野田・恩田
同個人戦 準優勝 第23期 堀田省吾
- 昭和52年 第15回中四国学生選手権 組手団体戦準優勝
第24期福井・中村・野田・恩田、第25期太田・平野
- 昭和55年 第5回中四国学生個人選手権 準優勝
第27期 宮野 直昭
- 昭和55年及び58年 全日本大学選手権出場
- 昭和59年 国体 青年男子個人組手中量級の部出場
第32期 土屋 康二
- 昭和61年 第11回中四国個人選手権 組手個人戦準優勝
第33期 東城 英雄

ハ 近年の顕著な成績

- 平成12年 第1回呉市空手道選手権大会
組手個人一般男子有級の部 第3位
組手個人一般女子有段の部 優勝

ニ 近況

空手部は、第50期及び第51期9名で活動している。出場する試合それぞれにおいて良い成績を収めること、また4年間で初段をとることを目標とし、日々練習に励んでいる。毎週水曜日には、糸洲会拳志館の小越福美師範に指導を仰ぎ今後も、目標達成に向けて努力していく。

7 バスケットボール部

イ 創部年 昭和38年頃

ロ 過去の最高成績

昭和44年 広島県大学バスケットボール2部リーグ 優勝

ハ 近年の顕著な成績

平成12年度個人得点・3ポイント上位ランキング

第47期石塚、第48期久保、第50期池田

ニ 近況

広島県大学バスケットボールリーグの2部で活躍中。得点ランキングで上位にランクされている者もいるが、試合では接戦の末、勝利を逃すことが多い。精神面での強さが課題である。

現在、部員が少ないため、一人一人の能力アップが望まれるところである。2部優勝、1部昇格を目指し頑張っている。

8 水泳部

イ 創部年 一度廃部になったが、昭和58年頃再建

ロ 過去の最高成績

昭和58年 第18回中四国学生選手権大会 2位入賞

第33期 尼寺 方子

第30回全国国公立大学選手権大会出場

ハ 近年の顕著な成績

平成13年 中四国学生選手権 B決勝進出

ニ 近況

シーズン中は校内のプールで練習、冬期はランニング、筋力トレーニングを中心に行っている。

9 少林寺拳法部

イ 創部年 平成3年

ロ 最高成績

平成8年 中四国学生大会 予選通過し本戦出場

ハ 近況

現在は、昇段・昇級を主な目標として活動している。週一回は、外部から藤原光世師範を招き、夏には四国にある総本山で合宿を行っている。

10 バレーボール部

イ 創部年 平成元年（同好会）

ロ 過去の最高成績

平成6年 第40回中国大学バレーボールリーグ第3部 優勝

平成6年 第1回山口県知事杯ビーチバレーボール第1部 優勝

ハ 近年の顕著な成績

中国大学バレーボールリーグ第5部

ニ 近況

部員は、兼部者を含め、10名で活動している。基本的には毎日活動しているが、人数が

少なく、1人でも欠けると、十分な練習ができない状態である。授業等の関係もあり、全員が練習に参加できる日は少なく現状としては人数不足で練習の内容も制限されて十分な活動ができていない。

11 テニス部

イ 創部年 平成6年

ロ 最高成績及び顕著な最近の成績

平成10年 呉市民大会 ダブルス 3位

平成11年 中四国学生テニス大会 3回戦進出

ハ 近況

現在の活動は峠を走ってから、大会に向けてフォームの修正などを中心に練習している。

12 ラグビー部

イ 創部年 昭和56年（同好会） 平成6年（部）

ロ 最高成績及び近年の最高成績

平成7年度、平成9年度から平成11年度

広島県大学高専ラグビーリーグ戦 1部リーグ参戦

ハ 近況

現在のラグビー部員は、第47期6名、第48期4名、第49期3名、第50期4名、第51期6名である。このうち、常時練習可能な者は10名程度で、かなり人数は少ないが、密度の濃い練習を行っている。練習は休日を除き、授業終了後直ちに開始し、日が暮れボールが見えなくなるまで、時間いっぱい行っている。活動場所は、主としてグラウンドだが、さらに毎週2日、食事終了後、筋力トレーニングを欠かさず行っている。また、毎週水曜日には、バブコック日立ラグビー部とともに午後6時頃から練習を行っている。公式戦は、5月に広島県7人制ラグビー大会、6月には呉市民大会、7月には海上保安学校ラグビー部との交流試合、そして、9月から12月にかけて、広島県大学ラグビーリーグ戦と、シーズンオフはほぼない。

ラグビー部は昭和56年同好会としてスタートし、練習を重ね、社会人リーグにおいて好成績を残した。部へと昇格した平成6年度以降は、大学高専リーグに参加し、他校に負けず劣らず戦い続けたが、平成11年度の成績不良のため、2部リーグへ格下げとなった。そのため、1部リーグへ再昇格するため、リーグ優勝を目標に食事をはさんでの2部練習や休日返上の練習などで一致団結して熱心な活動を続け、平成13年度リーグ戦において全勝優勝を果たし、平成14年度は再び1部リーグへ昇格することとなった。今後は1部リーグでの優勝を目指し、更に厳しい練習を積んでいる。

ラグビーとは、紳士のスポーツである。このスポーツを通じて得るものはとても多く、チームワーク（団結力）、自己の目標を持ち協調性を養える（自律と他律）、上級生に関してはリーダーシップ（統率力）と、まさに当大学校の教育方針と合致するものともいえる。ラグビーは15人で行うスポーツであるが故に、学生数の少ない当大学校においては、部員数が十分であるとはいえないが、今後とも熱心に活動しようと頑張っている。

13 カッター部

イ 平成4年5月17日、横須賀市伊勢崎沖の直線2,000メートルのコースで行なわれた第36回全日本カッター競技大会において、当大学校クルーが10年ぶり、6回目の優勝を飾った。

参加したのは当大学校をはじめ、防衛大学校、東京商船大学、東京水産大学など13校、予選第3レースに出場した当大学校クルーは、前回優勝の鹿児島大学や長崎大学、三重大大学と対戦、スタート直後から安定したピッチと一糸乱れぬオールさばきで他を圧倒、2位の鹿児島大学に1分の差をつけて1位で予選通過、決勝レースは地元の防衛大学校とはこれまで最多優勝歴を持つ東京水産大学との対戦となった。半年にわたる厳しい練習で大会に臨んだ当大学校クルーは、呉からはるばる駆けつけた応援団や、本庁及び三管本部職員の大声援を受けながら、レース序盤こそ防衛大学校と手に汗握るデッドヒートを繰り広げたものの、後半には地力を発揮、2位の防衛大学校に4艇身の差を付けてゴール。10年ぶり6回目の優勝を飾った。



長官表彰を受ける男子クルー

この快挙に対して、海上保安庁長官から当大学校カッター部に対して、「平素からクラブ活動に積極的に取り組み、学業と並行しながら幾多の諸困難を克服し、第36回全日本カッター競技大会で日頃の練習成果とチームワークを遺憾なく発揮、見事優勝した」との長官表彰が行なわれた。

この2年後の、当大学校で開催された第38回全日本カッター競技大会においても、敗者復活戦から勝ち上がった当大学校クルーが決勝レースで水産大学校とデッドヒートを演じ、両艇もつれたままゴール。大会史上初のビデオ判定となり、11分33秒の同タイムとなったが、競技規則により追い込み艇の当大学校の優勝が決まり、二度目の長官表彰を受賞することとなった。

- ロ 平成11年5月22日、当大学校前面海域において第43回全日本カッター競技大会が開催され、この大会から正式競技となった女子の部において、当大学校女子クルーが初代の女王に輝いた。

今回の女子の部においては、神戸商船大学、水産大学校、東海大学、三重大大学、当大学校の5校が参加、当大学校は終始リードし、2位の三重大大学に4艇身の差をつけ優勝、新しい真紅の大優勝旗を獲得した。



初代女王に輝いた当大学校女子クルー

- ハ 平成12年10月21日、長崎県大村湾で第46回西日本新人カッター競技大会が開催され、当大学校クルーが2年ぶりの優勝を勝ち取った。

大会には、神戸商船大学、水産大学校、長崎大学、鹿児島大学、三重大大学及び当大学校の6校が参加し、当大学校は予選1位のタイムで決勝へ。神戸商船大学、長崎大学の3校で争った決勝は当大学校が2位の神戸商船大学に10艇身以上の差をつけ14分28秒で圧勝した。

西日本新人カッターレースは昭和30年11月13日に呉の地で行われた当大学校と神戸商船大学の2校による交流試合から数え、今回が46回目となる。

当大学校では、毎年5月に新人クルーを結成し、「優勝」の二文字を目指して約半年間

にわたる猛練習を積み重ね試合に臨み、現在まで開催回数の半分以上を超える26回もの優勝を誇っている。

- ニ 平成13年10月22日、爽やかな秋晴れの下、下関市吉見沖にて、水産大学校の主管による第47回西日本カッター競技大会が開催された。同大会は一般レースと女子特別レースが行われたが、当大学校は一般レースに出場し、予選レースにおける最高タイムで決勝レースへと進んだ。

決勝レースは、神戸商船大学、水産大学校及び当大学校の3校で争われた。スタート直後は当大学校は他の2校に頭を押さえられたものの、往路半ばには他の2校を抜き去り、回頭時には4艇身のリードを保って折り返した。復路では第2位の水産大学校を引き離し、10艇身の大差をつけてゴールした。

レース後、2連覇を果たした当大学校クルーは権立てをして、観客の声援に応えた。

14 刑事法研究会

イ 創部年 平成5年

ロ 活動内容

毎回討論会形式で刑法の事例問題に取り組んでいる。教官と学生、あるいは学年の垣根を越えて対等で自由な討論を行うことをモットーに、法律問題に対処するための基礎知識の習得だけでなく、法的分析力、リーガルマインドの養成を目的としている。

その他、年によっては、刑事法研究会会誌の発行や広大への模擬裁判の見学が行われることもある。

ハ 近況

例年、1年生から4年生まで総勢約10名位が在部しており、週1回を目安に刑法ゼミを開催している。スポーツ部との兼部等の兼ね合いから全員がゼミに参加できるよう日程調整するのは難しいが、前期中は2、3年生が、後期は1、2年生を中心にして活動中。今後は、他大学刑法ゼミとの交流やホームページの開設も計画中である。

5 学生祭の歩み

回	年	日時	主 な 行 事	テーマ	備 考
33	昭和58年	5月21日(土) 5月23日(月) 5月27日(金) 6月4日(土) 6月11日(土) 6月12日(日)	コンサート(呉市民会館) 泰葉 講演会(呉市民会館) 作家:阿刀田 高「私の発想法」 映画会「Growing up」 ダンスパーティー(呉勤労会館) 前夜祭 花火大会・ステージ・夜店・もちつき 一般公開 写生大会・体験航海(巡視船「くま」)・レストラン・救難実演・喫茶・カッター試乗会・占い・人力車・美術展・写真店・もちつき・落書き・七宝焼・資料館公開・出店	海はわらう	
34	昭和59年	5月27日(金) 5月28日(月) 6月2日(土) 6月3日(日) 6月9日(土)	Opening Festival(呉市民会館) マスコットガールコンテスト・フォークコンサート・ギター・仕舞・ジャズダンス・久美子にアタック・遠藤賢司&「オムライスそして宇宙防衛軍ショー」 講演会(情操教室) 作家:高橋泰邦「私と海洋文学」 前夜祭 花火大会・ステージ・夜店 一般公開 写生大会・体験航海(巡視船「ちくぜん」)・レストラン・救難実演・ミニFM局・人力車・コンピューター占い・水路業務発表・巡視船写真展示・君は馬に勝てるか・喫茶・写真展・写真店・美術展・フォーク演奏・七宝焼・資料館公開・出店 ダンスパーティー(折本マリンビル)	PRESENCE～海があるから	
35	昭和60年	5月26日(日) 5月27日(月) 6月1日(土) 6月2日(日) 6月8日(土)	Opening Festival(呉市民会館) 学生演奏によるコンサート・ミス・キャンパス・コンテスト・尺八&琴演奏会・ジャズダンス・学生有志による合唱 講演会(情操教室) ジャーナリスト:谷畑良三「ソ連及びロシア人についての体験的考察」 前夜祭 花火大会・ステージ・夜店 一般公開 写生大会・体験航海(巡視船すずか)・レストラン・救難実演・海上における犯人逮捕実演・FM海保・人力車・コンピューター占い・カッター試乗会・ちびっ子駆け足大会・ラジコン巡視船・護身術・巡視船及び海上保安庁の展示・アウトドアスポーツ品展示・バイク展・アニメ展・ストリートダンス・国際政治の現状についての演説・座談会・恋人リサーチ・学生会新聞展・ギア及びクランク展示・落書き・かき氷・喫茶・写真展・写真店・美術展・七宝焼・資料館公開・出店 ダンスパーティー(折本マリンビル)	ポテンシャルパワー ☆全快!! ～おいらは ちょっと アカデミー～	
36	昭和61年	5月24日(土) 5月31日(土) 6月7日(土) 6月8日(日)	講演会(本校体育館) 作家:沢木耕太郎「異国の青春」 ダンスパーティー(呉勤労会館) 前夜祭 花火大会・ステージ・夜店 一般公開(当日祭) 写生大会・体験航海(巡視船「ごとう」)・レストラン・救難実演・人力車・コンピューター・友人紹介・カッター試乗会・子供の広場・水	「We can...」 ～俺達 青春 海洋民族 (ますらをぞく)～	

			路部の業務紹介・バイク展・アニメ展・座談会・ゴーカート製作及び試乗会・テレホンカード販売・エスペラント語講座・現代高校生活白書展・学生会新聞展・喫茶・写真展・写真店・美術展・七宝焼・資料館公開・模擬店呉～神賀橋～大学～呉（循環）無料バス運行特別企画 歌手：庄野真代ー講演会・奥濱敏二&ジャズメイツーコンサート		
37	昭和62年	5月22日(金) 5月30日(土) 6月6日(土) 6月7日(日)	講演会（情操教室） 登山家：今井通子「山と人生」 ダンスパーティー（折本マリンビル） 前夜祭 花火大会・ステージ・夜店 当日祭 写生大会・体験航海（巡視船「こしき」）・レストラン・救難実演・人力車・パソコン相性診断・バイオリズム相性診断・カッター試乗会・模擬裁判・お茶会・自主作成映画・喫茶・写真展・美術展・七宝焼・資料館公開・模擬店	「人と海との ニューバランス」	15年ぶりのお茶会
38	昭和63年	5月28日(土) 6月3日(金) 6月4日(土) 6月5日(日)	ダンスパーティー（折本マリンビル） 講演会（情操教室） 評論家：水野晴郎 「～水野晴郎PROFILE～」 前夜祭 花火大会・ステージ・夜店 当日祭 写生大会・体験航海（巡視船「あしずり」）・レストラン・救難実演・人力車・コンピューター占い・ヨット試乗会・カッター試乗会・子供と遊ぼう・ラジコン巡視船・海上保安庁の展示・海上保安グッズ販売・ENJOY企画・模擬裁判・アニメ展・殴られ屋・喫茶・写真展・記念写真・美術展・七宝焼・資料館公開・模擬店	FREE WILL ～ボセイドンの怒り～	
39	平成元年	5月27日(土) 5月29日(月) 6月3日(土) 6月4日(日)	ダンスパーティー（呉玉姫殿） 講演会（体育館） 作家：倉本聰「北海道で考える」 前夜祭 花火大会・ステージ・夜店 当日祭 写生大会・体験航海（巡視船「あしずり」）・レストラン・救難実演・パソコン占い・体験クルージング・カッター試乗会・海上保安庁の展示・海上保安グッズ販売・ENJOY企画・街（呉）の横顔・電子模型教室・中国に関するコーナー・ミュージックビデオシアター・喫茶・写真展・記念写真・美術展・七宝焼・資料館公開・模擬店	青春の羅針盤 ～STRAIGHT FROM THE HEART～	学生祭を3日間として、後夜祭を3日目に実施（以後平成3年9年を除く毎年）学生祭の愛称を「龍宮祭」とした
40	平成2年	5月26日(土) 5月30日(水) 6月2日(土) 6月3日(日)	ダンスパーティー（呉玉姫殿） 講演会（呉文化ホール） 作曲家：都倉俊一「国際社会と日本人」 前夜祭 花火大会・ステージ・夜店、天体観測 当日祭 写生大会・体験航海（巡視船「のじま」・巡視艇「いせなみ」）・レストラン・救難実演・パソコン占い・海上クルージング・カッター試乗会・海上保安庁の展示・海上保安グッズ販売・ゴーカート・航海計器の展示・自主製作映画上映・写真展・美術展・資料館公開・模擬店	自由への航海・ 21世紀宣候！	

41	平成3年	5月25日(土) 6月3日(月) 6月8日(土) 6月9日(日)	ダンスパーティー (NOA (旧呉玉姫殿)) 講演会 (情操教室) 野球解説者: 古葉竹識 「私の野球人生」 前夜祭 花火大会・ステージ・夜店・肝だめし 当日祭 写生大会・体験航海 (測量船「昭洋」)・レストラン・救難実演・コンピューター占い・海上クルージング・カッター試乗会・マリンスポーツ展示及び実演・海上保安庁の展示・海上保安グッズ販売・納涼おでん船・写真展・記念撮影・美術展・資料館公開・模擬店	前進最微速 ～君は大海原に 青春の光を灯せるか～	
42	平成4年	6月6日(土) 6月7日(日) 6月20日(土)	前夜祭 花火大会・ステージ・夜店・占いの館・パイ投げ・旅行案内・大衆食堂 当日祭 写生大会・体験航海 (巡視船「わかさ」)・大衆食堂・救難実演・コンピューター占い・海上クルージング・カッター試乗会・マリンスポーツ展示・海上保安グッズ販売・旅行事情案内・天体スライド・写真展・記念撮影・美術展・資料館公開・模擬店 特別企画 (非公開) 映画パート自主制作映画 ダンスパーティー (NOA)	フルセーリング ～順風満帆～	正式名称を「龍宮祭」とした。
43	平成5年	5月23日(日) 5月29日(土) 6月5日(土) 6月6日(日) 6月26日(土)～27日(日)	講演会 (情操教室) 大学教授: 北野大 「海洋汚染と地球環境」 ダンスパーティー (NOA) 前夜祭 花火大会・ステージ・夜店・競馬ゲーム・レストラン 当日祭 写生大会・体験航海 (巡視船「いさづ」)・レストラン・救難実演・洋上クルージング・カッター試乗会・海上保安グッズ販売・写真展・記念撮影・美術展・資料館公開・模擬店 特別企画 (呉市文化ホール) 写真同好会・美術同好会展示会	オールラウンド ～あらゆる波を乗り 越えろ!～	
44	平成6年	6月4日(土) 6月5日(日) 6月18日(土)	前夜祭 花火大会・ステージ・夜店 当日祭 写生大会・体験航海 (測量船「海洋」: ミス呉乗船)・レストラン・救難実演・洋上クルージング・マリンスポーツ展示及び模範演技・カッター試乗会・水路・灯台業務展示・海上保安グッズ販売・写真展・美術展・資料館公開・模擬店 ダンスパーティー (NOA)	ANCHOERS AWEIGH ～魅せられた海へ～	
45	平成7年	6月3日(土) 6月4日(日) 6月30日(金)	前夜祭 花火大会・ステージ・出店・レストラン・当日祭 写生大会・体験航海 (巡視船「みささ」)・レストラン・洋上クルージング・カッター試乗会・タロット占い・フリーマーケット・海上保安グッズ販売・水路・灯台業務PR・写真展・美術展・資料館公開・出店 ダンスパーティー (マリンビルボートピア 呉)	Youth～青春を 謳歌しているか～	

46	平成8年	6月1日(出) 6月2日(日) 6月8日(出)	前夜祭 花火大会・ステージ・出店・レストラン・ 当日祭 写生大会・体験航海(測量船「天洋」)・レス トラン・救難実演・洋上クルージング・カッ ター試乗会・海上保安グッズ販売・射的・写 真展・記念撮影・美術展・資料館公開・出店 特別企画 戸島ひろこ灯台画展 ダンスパーティー (NOA)	海の未来 ～でっかい海の でっかい夢～	
47	平成9年	5月31日(出) 6月6日(金)	花火大会・ステージ・出店・レストラン・写 生大会・フォトコンテスト・洋上クルージ ング・カッター試乗会・マウンテンバイクショー ダンスパーティー (NOA)	原点	学生の希望で実 施日は1日とな った。後夜祭の 日に環境美化作 業を実施し、以 後現在まで継続 して実施してい る。
48	平成10年	6月6日(出) 6月7日(日) 6月20日(出)	前夜祭 花火大会・ステージ・出店・レストラン・ 当日祭 写生大会・体験航海(測量船「海洋」)・レス トラン・救難実演・洋上クルージング・カッ ター試乗会・海上保安グッズ販売・フォトコ ンテスト・資料館公開・出店 ダンスパーティー (NOA)	～若葉のころ～	
49	平成11年	6月12日(出) 6月13日(日) 6月13日(日) 6月19日(出)	前夜祭 花火大会・ステージ・出店・レストラン・洋 上クルージング・カッター試乗会 当日祭 写生大会・体験航海(測量船「天洋」)・レス トラン・救難実演・洋上クルージング・カッ ター試乗会・海上保安グッズ販売・海上環境 展(六本部合同企画)・レーダーシュミレー ター操船・海上保安庁プリクラ・インターネ ット体験・エンジンカットモデル展示・ラジ コン展示・フォトコンテスト・記念撮影・資 料館公開・出店 講演会(呉市民会館) 内閣安全保障室初代 室長:佐々淳行「危機に対する対処」 ダンスパーティー (NOA)	～YES, WE CAN～	「うみまる」の 着ぐるみを着用 する
50	平成12年	6月10日(出) 6月11日(日) 6月24日(出)	前夜祭 花火大会・ステージ・出店・レストラン・洋 上クルージング・カッター試乗会・バザー・ 逮捕術トーナメント・カッターイルミネーション 当日祭 写生大会・体験航海(測量船「海洋」)・レス トラン・救難実演・救難資器材展示・洋上クル ージング・カッター試乗会・海上保安グッズ 販売・観覧行進・バザー・資料館公開・出店 ダンスパーティー (呉森沢ホテル)	～出港用意～	レストランを学 生寮屋上にて実 施。花火大会規 模2倍(1,000 発)。観覧行進 実施
51	平成13年	6月9日(出) 6月10日(日) 6月16日(出)	前夜祭 花火大会・ステージ・出店・レストラン・洋 上クルージング・カッター試乗会・バザー・ 観覧行進・カッターイルミネーション 当日祭 写生大会・体験航海(巡視船「せつつ」)・レス トラン・救難実演・救難資器材展示・洋上 クルージング・カッター試乗会・海上保安グ ッズ販売・バザー・資料館公開・出店・企画 展示・文化展 ダンスパーティー (CLUB CHINA TOWN (広島))	LOVE JAPAN LOVE OCEAN	花火大会過去最 大。開校50周年 記念

6 園児招待

回	年 月 日	時 間	来 校 者	内容の特徴など
1	昭和28年12月 7 日	一日中	仁風園 園児56名	練習船「ありあけ」で港内見学、会食、校内見学、映画、ブラスバンド演奏、園児コーラス
2	昭和29年12月 9 日	1400-2000	仁風園 職員 6 名 園児88名	海上自衛隊艦船見学、海上自衛隊警備艇で港内見学、校内見学、野球、会食、演芸会
3	昭和30年12月19日	1530-1930	仁風園 職員 8 名 園児81名	巡視艇「しらつゆ」にて送迎、「こじま」見学、漫画映画、遠洋航海スライド、寮内で交歓、会食、演芸会
4	昭和31年12月12日	1530-1930	仁風園 職員11名 園児91名	巡視艇「しらつゆ」にて送迎映画、寮内で交歓、会食、演芸会
			愛光園 初参加するも詳細不明	
5	昭和32年12月11日	1530-1930	仁風園 職員 7 名 園児100名	巡視艇「しらつゆ」にて送迎「こじま」見学、映画、会食、寮内で交歓、演芸会
			愛光園 職員 5 名 園児30名	
6	昭和33年12月18日	1530-1930	仁風園 職員 7 名 園児99名	巡視艇「しらつゆ」にて送迎「こじま」見学、映画、会食、寮内で交歓、演芸会
			愛光園 職員 5 名 園児30名	
7	昭和34年12月18日	1530-1930	仁風園 園児約100名他	巡視艇「かばしま」にて送迎「こじま」見学、映画、会食、寮内で交歓、演芸会
			愛光園 園児約30名他	
			5 名	
8	昭和35年12月16日	1530-1930	仁風園 園児約100名他	貸し切りバス 2 台で来校「こじま」見学、映画、会食、寮内で交歓、演芸会
			愛光園 園児約30名他	
			5 名	
9	昭和36年12月18日	1445-2130	仁風園 職員10名 園児101名	巡視艇「しらつゆ」・「かばしま」にて完成した音戸大橋を見学後來校、会食、親睦会
			愛光園 職員 4 名 園児29名	

10	昭和37年12月18日	1445-2130	仁風園、愛光園 園児約150名 職員約15名	巡視艇「しらつゆ」・「かばしま」にて音戸大橋を見学 後来校、会食、映画、親睦会
11	昭和38年12月17日	1730-2030	仁風園 愛光園 約120名	不詳
12	不詳			
13	昭和40年12月 4 日	1430-2000	仁風園 愛光園 114名	バスで来校（以後全てバス）、交歓会（劇・コーラス）、会食
14	昭和41年12月10日	1430-2000	仁風園 愛光園 120名	交歓会（劇・コーラス）、会食
15	昭和42年12月 9 日	1400-2000	仁風園 愛光園 121名	交歓会（劇・コーラス）、会食
16	昭和43年12月14日	1345-1910	仁風園のみ職員11名 園児96名 愛光園は、行事の都合で不参加	映画、歌とゲーム、海の教室、夕食会
17	不詳			
18	昭和45年 6 月13日	1400-2000	仁風園 愛光園 100名	カッター 6 隻にて呉港内帆走、会食、交歓会
19	昭和46年 6 月26日	1400-2000	仁風園 愛光園 119名	呉港内カッター帆走、運動会、会食、交歓会
20	昭和47年 7 月 1 日	1400-2000	仁風園 愛光園 111名	運動会、会食、交歓会、映画
21	昭和48年 6 月23日	不詳		
22	昭和49年 6 月22日	1400-2000	仁風園 園児 87名 愛光園 園児 27名	運動会、お化け屋敷、会食、交歓会
23	昭和50年 6 月28日	1445-2000	仁風園 職員15名 園児82名 愛光園 職員 6 名 園児25名	運動会、お化け屋敷、晩餐会
24	昭和51年 6 月26日	1400-2030	仁風園 職員16名 園児97名 愛光園 職員 6 名 園児26名	運動会、お化け屋敷、人力車、会食、交歓会、花火
25	昭和52年 6 月18日	1435-2030	仁風園 愛光園 132名	運動会、会食、交歓会、映画、花火
26	昭和53年 6 月17日	1400-1800	仁風園 職員20名 園児75名 愛光園 職員 5 名 園児27名	グラウンドでゲーム、映画、会食、花火

27	昭和54年 6 月16日	1430-2000	仁風園	職員20名 園児82名	グラウンドでゲーム、会食
			愛光園	職員 5 名 園児27名	
28	昭和55年 6 月21日	1430-2000	仁風園	職員10名 園児約70名	小運動会、お化け屋敷、 人力車、会食、映画、花 火
			愛光園	職員 6 名 園児約30名	
29	昭和56年 6 月27日	1430-2000	仁風園	職員12名 園児75名	小運動会、お化け屋敷、 人力車、卓球、カッター、 夕食会、映画、花火、資 料館見学
			愛光園	職員12名 園児27名	
30	昭和57年 6 月26日	1430-2000	仁風園	職員15名 園児70名	球技大会、カッター試乗 会、夕食会、歌の祭典、 花火
			愛光園	職員 8 名 園児24名	
31	昭和58年 6 月25日	1400-2000	仁風園	職員10名 園児71名	カッター、球技、小運動 会、夕食会、映画、花火
			愛光園	職員 3 名 園児23名	
32	不詳				
33	昭和60年 6 月15日	1430-1900	仁風園	職員12名 園児90名	歌の祭典、カッター試乗 会、映画、資料館見学、 夕食会
			愛光園	職員 3 名 園児27名	
34	昭和61年 6 月14日	1430-1900	仁風園	職員11名 園児71名	運動会、カッター試乗会、 映画、資料館見学、夕食 会
			愛光園	職員 3 名 園児19名	
35	昭和62年 6 月20日	1430-1900	不詳		歌の祭典、卓球など
36	昭和63年 6 月18日	1430-1700	仁風園	職員11名 園児64名	運動会、カッター試乗会、 マジックショー、ゲーム、 アームレスリング、カッ ター、昔の遊び、バレー ボール、サッカー、バド ミントン、夕食会
			愛光園	職員 4 名 園児22名	
37	不詳				
38	不詳				
39	平成 3 年 6 月29日	1400-1900	仁風園	職員 6 名 園児48名	体育館開放、午餐会
			愛光園	職員 3 名 園児21名	
40	平成 4 年 6 月27日	1400-1900	仁風園	職員 7 名	

			園児46名	運動会、カッター試乗会、 資料館見学、体育館開放
			愛光園 職員 3 名 園児17名	
41	平成 5 年 7 月 3 日	1420-1830	仁風園 職員 5 名 園児59名	オリエンテーリング、カ ッター試乗会、夕食会
			愛光園 職員 3 名 園児19名	
42	平成 6 年 6 月 25 日	1420-1830	仁風園 職員 5 名 園児51名	班対抗運動会、機動艇試 乗会、カッター試乗会、 資料館見学、映画、夕食 会
			愛光園 職員 6 名 園児19名	
43	平成 7 年 6 月 17 日	1330-1830	不詳	カッター試乗会、機動艇試 乗会、釣り体験、ビデオ鑑 賞、校内宝探し、午餐会
44	平成 8 年 6 月 15 日	1430-1830	仁風園 職員 5 名 園児41名	カッター試乗会、機動艇 試乗会、ビデオ鑑賞、ソ フトボール、ウォークラ リー、夕食会
			愛光園 職員 3 名 園児16名	
45	平成 9 年 6 月 14 日	1400-1800	仁風園 職員 5 名 園児48名	カッター試乗会、機動艇 試乗会、クッキング教室、 キックベース、ビデオ鑑 賞、運動会、夕食会
			愛光園 職員 3 名 園児22名	
46	平成10年 7 月 4 日	1330-1810	仁風園 職員 5 名 園児60名	カッター試乗会、機動艇 試乗会、クッキング教室、 ビデオ鑑賞、ドッチボー ル大会、ストラックアウ ト、夕食会
			愛光園 職員 3 名 園児20名	
47	平成11年 9 月 18 日	1430-1820	仁風園 職員 5 名 園児61名	カッター試乗会、機動艇 試乗会、クッキング教室、 「こじま」見学、ドッチ ボール大会、午餐会
		1330~1820	愛光園 職員 4 名 園児26名	
48	平成12年 9 月 9 日	1400-1820	仁風園 職員 6 名 園児57名	ドッチボール大会、ビデ オ鑑賞、クッキング教室、 夕食会
			愛光園 職員 4 名 園児28名	
49	平成13年 9 月 15 日	1345-1840	仁風園 職員 4 名 園児51名	カッター試乗会、機動艇 試乗会、クッキング教室、 ミニゲーム大会、夕食会
			愛光園 職員 3 名 園児28名	

7 弁論大会

学生が、社会情勢、学生生活のあり方等について幅広く問題意識を持ち、論理的科学的思索を深め、自己の考え方を第三者に発表することにより、表現力を磨くことを目的として、第1回弁論大会が平成6年3月17日に開催された。本科の1、2、3学年が総員参加し、大学校側から指定した学生生活に関するものや教育に関するものといった6種類のテーマの中から学生が選択して原稿を作成した。1月11日を期限として提出された原稿は、

各学年毎に各グループで審査され、各学年各班1名ずつ計18名の代表者を弁論大会進出者として決定した。選考にあたっては、論点、読み易さ、言葉遣い、説得力等を総合的に判断することを基準とした。弁論大会の発表は、午前10時から15時までの間、情操教室で実施され、1人当たりの弁論時間は7分間として、個人戦及び各班対抗の団体戦を基準として実施された。審査については、審査委員長を副校長とし、審査委員として各グループから教官代表（教授）1名、及び学



生長・副学生長の計10名を選出した。選ばれた発表者達は、それぞれの個性を生かし熱弁を振るったが、第1回大会優勝者として、第3学年後藤学生の「虚ろな人間」が選ばれた。また、団体の部においては、第2班が優勝した。弁論大会は、第1回以降毎年開催されているが、団体戦は第3回からなくなり、第5回からはディベートを取り入れ、第7回からは英語による発表を行なうなど、より良い方向を目指し、少しずつ形を変えながら実施している。

回	実施日	テーマ	発表者	表彰
1	H6.3.18	6つの中から選択	各班各学年1名	個人戦及び班対抗
2	H7.3.17	自由	各班各学年1名	個人戦及び班対抗・審査員特別賞
3	H8.3.19	自由	各学年6名	個人戦・審査員特別賞・佳作
4	H9.3.14	自由（質疑応答有）	各学年6名	個人戦・審査員特別賞・佳作
5	H10.3.17	個人弁論：自由 ディベート	各学年5名 各学年10名	優秀賞5名・審査員特別賞 大会会長賞1チーム
6	H11.3.16	自由研究発表会 ディベート	各学年4名 各学年10名	優秀賞5名・審査員特別賞 大会会長賞1チーム
7	H11.12.1	自由研究発表会 ディベート	各学年3名・英語3名 各学年8名	優秀賞5名・審査員特別賞 大会会長賞1チーム
8	H12.11.29	自由研究発表会 海外渡航者発表会 ディベート	書類選考で2名 英語2名 5人組16チーム	最優秀者及び優秀者 優秀賞 優勝・準優勝・3位
9	H13.12.19	自由研究発表会 海外渡航者発表会 ディベート	書類選考で3名 英語6名 8～10人組12チーム	最優秀者及び優秀者 優秀賞 優勝・準優勝・3位

Ⅱ 訓 練

1 水 泳

昭和58年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月18日～25日の間、吉浦湾にブイを設置して実施。

(2) 遠泳訓練

7月27日倉橋島桂ヶ浜沖合にブイを設置して実施。

結果

班	距離(哩)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
A	5	26	24	92.3	3 h 22m
B	5	34	32	94.1	3 h 35m
C	5	44	32	72.7	4 h 37m
D	3	17	16	94.1	3 h 58m

昭和59年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月16日～23日の間、吉浦湾にブイを設置して実施。

(2) 遠泳訓練

7月25日、厳島南側を訓練海域とし、5海里は腰細浦から、3海里は青海苔浦からそれぞれ長浦までの遠泳を実施。

結果

班	距離(哩)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
A	5	30	30	100	3 h 20m
B	5	37	37	100	3 h 26m
C	5	39	39	100	3 h 48m
D	3	19	19	100	2 h 31m

昭和60年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月12、13日の2日間、大宇校スロープから若葉浜まで岸伝いに泳がせる慣海訓練を実施。7月15日～20日までの間、前年度と同様に編隊泳法訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

7月24日訓練海域は厳島東側であるが、5海里は革籠埼沖合、3海里は青海苔浦沖合をそれぞれ訓練開始地点とし、鷹ノ巣浦までであった。



結果

班	距離(湊)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	31	31	100	4 h 03m
5B	5	35	30	85.7	5 h 27m
3A	3	23	23	100	1 h 34m
3B	3	25	25	100	2 h 44m

昭和61年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月14日～19日の間、大学校スロープから若葉浜まで岸伝いに泳がせる慣海訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

7月23日、訓練海域は厳島東側で実施した。泳路は次のとおり。

5海里班 鷹ノ巣浦沖(「こじま」船上)～センゴ鼻～(反転)～鷹ノ巣浦沖
～腰細浦沖～青海苔浦

3海里班 鷹ノ巣浦～腰細浦沖～青海苔浦

結果

班	距離(湊)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	32	32	100	3 h 34m
5B	5	36	36	100	3 h 49m
3A	3	31	31	100	1 h 52m
3B	3	21	21	100	2 h 08m

昭和62年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月10日～18日の間、この年から本館前面海域(ポンド～若葉浜)で実施していた慣海訓練を、吉浦湾へ変更した。(ブイ周回コースとなった)

(2) 遠泳訓練

7月22日、訓練海域を厳島南側とし、5海里は腰細浦から、3海里は青海苔浦からそれぞれ長浦までの遠泳を実施。

結果

班	距離(湊)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	33	33	100	3 h 42m
5B	5	23	19	82.6	3 h 57m
3A	3	37	37	100	2 h 37m
3B	3	22	22	100	2 h 40m

昭和63年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月14日～23日の間、吉浦湾にブイを設置し、編隊泳法訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

7月26日に昨年度と同様の訓練海域及びコース等で実施。

結果

班	距離(哩)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	40	40	100	3 h 22m
5B	5	38	35	92.1	3 h 44m
3A	3	31	30	96.8	2 h 12m
3B	3	21	21	100	2 h 38m

平成元年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月13日～22日の間、吉浦湾にブイを設置し、編隊泳法訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

7月26日に厳島南側海域において、5海里は玖波湾から、3海里は養父崎浦からそれぞれ腰細浦までの遠泳を実施。

結果

班	距離(哩)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	36	34	94.4	4 h 13m
5B	5	38	37	97.4	5 h 00m
3A	3	29	29	100	2 h 28m
3B	3	25	25	100	3 h 00m

平成2年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月12日～21日の間、吉浦湾にブイを設置し、編隊泳法訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

7月25日に厳島南側海域において、5海里は腰細浦から、3海里は青海苔浦からそれぞれ長浦までの遠泳を実施。

結果

班	距離(哩)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	46	45	97.8	4 h 38m
5B	5	38	34	89.5	5 h 13m
3A	3	34	34	100	2 h 51m
3B	3	26	25	96.2	3 h 09m

平成3年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月11日～20日の間、吉浦湾にブイを設置し、編隊泳法訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

7月24日に昨年と同様の遠泳を実施したが、この年は悪天候（強風）のため途中揚収者が多く、5A班は訓練開始地点から4.5海里（6時間05分）にて、5B班は訓練開始地点から3.6海里（5時間53分）にて全員揚収とし、揚収した時点で泳いでいた者について、完泳したもののみとした。

なお、本年は「こじま」に替わり、巡視船「みささ」（呉海上保安部）、巡視船「やまくに」（大分海上保安部）の派遣により人員輸送、泳路警戒が行われた。

結果

班	距離(哩)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	45	23	51.1	6 h 05m
5B	5	30	12	40	5 h 53m
3A	3	36	32	88.9	4 h 18m
3B	3	24	18	75	5 h 02m

平成4年度

(1) 編隊・水泳訓練

この年は、鯨目撃情報及び鯨騒動が相次いだことから、7月9日～7月17日の間、編隊泳法訓練を長郷海水浴場、泳力養成訓練を当大学校潜水訓練プールで実施。

(2) 遠泳訓練

遠泳訓練に替わり、7月20日にA・B班を6,000mの編隊泳法訓練、7月21日にC・D班が4,000mの編隊泳法訓練を長郷海水浴場にて実施。

結果

班	距離(哩)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
A	5	42	40	95.2	
B	5	30	27	90	
C	3	45	45	100	
D	3	26	26	100	

平成5年度

(1) 編隊・水泳訓練

この年は、鯨目撃情報が少ないものの鯨が実在しない確証がないことから、7月9日～7月19日の間、こじま栈橋に鯨防護ネットを展開した上で訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

7月21日、こじま栈橋において遠泳訓練を実施。

結果

班	距離(哩)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	35	26	74.3	
5B	5	38	29	76.3	
3A	3	32	32	100	
3B	3	29	24	82.8	

平成6年度

(1) 編隊・水泳訓練

前年同様、こじま栈橋周辺に鯨防護ネットを展開し、防護ネットで囲まれる海域において7月8日～7月18日の間、編隊泳法訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

7月20日、こじま栈橋において遠泳訓練を実施。

結果

班	距離(湊)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	42	41	97.6	3 h 55m
5B	5	37	37	100	4 h 10m
3A	3	26	26	100	2 h 48m
3B	3	26	25	96.2	3 h 44m
3S	3	4	4	100	2 h 34m

平成7年度

(1) 編隊・水泳訓練

前年同様、こじま栈橋周辺に鯨防護ネットを展開し、防護ネットで囲まれる海域において7月7日～7月17日の間、編隊泳法訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

7月19日、江田島湾内において遠泳訓練を実施。

結果

班	距離(湊)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	33	33	100	4 h 29m
5B	5	32	32	100	4 h 50m
3A	3	29	29	100	2 h 50m
3B	3	25	25	100	3 h 23m

平成8年度

(1) 編隊・水泳訓練

平成5年以降、呉、広島管内で鯨目撃情報がないことから、本年はこじま栈橋周辺海域への鯨防護ネットの展開を行わず、7月5日～7月15日の間、こじま栈橋を周回する編隊泳法訓練を実施した。

(2) 遠泳訓練

7月17日、ヒューマンビーチ長瀬を開始及び終了地点とする昨年と同コースで遠泳訓練を実施。

結果

班	距離(湊)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	37	35	94.6	4 h 20m
5B	5	28	28	100	5 h 02m
3A	3	27	27	100	2 h 37m
3B	3	23	22	95.7	3 h 12m

平成9年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月10日～7月18日までの間、こじま栈橋を周回する編隊泳法訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

昨年同様に遠泳訓練を計画していたが、海上自衛隊第1術科学校遠泳訓練と訓練日が重なることから、新たな訓練海域として「倉橋島東側奥ノ内」で計画した。

ところが、訓練間近の7月20日、倉橋島亀が首の東約2kmの海上で、シュモクザメが目撃されたことから、急遽訓練海域をこじま栈橋周辺海域に変更し、7月23日こじま栈橋におい

て遠泳訓練を実施。

結果

班	距離(湊)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	39	36	92.3	5 h 33m
5B	5	30	26	86.7	6 h 11m
3A	3	29	29	100	3 h 23m
3B	3	27	30	90.0	3 h 59m

平成10年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月9日～7月17日の間、こじま栈橋を周回する編隊泳法訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

7月22日に予定していた遠泳訓練は、雷雨のため翌23日に延期とし、大浦崎海水浴場を開始及び終了地点として遠泳訓練を実施。

結果

班	距離(湊)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	39	39	100	4 h 49m
5B	5	33	33	100	5 h 17m
3A	3	31	31	100	2 h 52m
3B	3	25	25	100	3 h 30m

平成11年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月8日～7月16日の間、こじま栈橋を周回する編隊泳法訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

当初、倉橋島奥ノ内で訓練を実施予定であったが、7月2日訓練開始地点に近い大浦崎の東方500m沖合で鯨が目撃されたことから、訓練海域を吉浦湾南側海域とした。

7月21日、吉浦湾南側海域にブイを設置、1周1海里のコースを設定して遠泳訓練を実施した。



結果

班	距離(湊)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	40	40	100	4 h 32m
5B	5	31	31	100	5 h 03m
3A	3	19	19	100	2 h 55m
3B	3	19	19	100	3 h 12m

平成12年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月12日～7月21日の間、こじま栈橋を周回する編隊泳法訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

呉港内及び倉橋島周辺海域において鯨が目撃されていないこと、倉橋島奥ノ内の水質が良好なことから、遠泳訓練実施海域を倉橋島奥ノ内とし、7月26日大浦崎海水浴場を開始及び終了地点として遠泳訓練を実施。

結果

班	距離(湊)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	39	38	97.4	4 h 36m
5B	5	24	24	100	4 h 58m
3A	3	38	38	100	3 h 00m
3B	3	25	25	100	3 h 10m

平成13年度

(1) 編隊・水泳訓練

7月12日～7月23日の間、こじま栈橋を周回する編隊泳法訓練を実施。

(2) 遠泳訓練

7月25日、昨年と同様に大浦崎海水浴場を開始及び終了地点として遠泳訓練を実施。



結果

班	距離(湊)	泳者数(人)	完泳者数(人)	完泳率(%)	所要時間
5A	5	39	39	100	4 h 35m
5B	5	37	37	100	4 h 44m
3A	3	30	30	100	2 h 57m
3B	3	23	23	100	3 h 11m



2 耐寒訓練の変遷

昭和57年度

- (1) 期間 早朝訓練 昭和58年 1 月11日(火)～ 1 月22日(土)
競技会 1 月21日(金)、 1 月22日(土)

(2) 早朝訓練

① 訓練種目

訓練種目	対 象 者			
	1 学年	2 学年	3 学年	特修科
柔 道	○	○		
剣 道	○	○		
端 艇	○	○		○
長距離走			○	○

※ 1、2 学年は端艇及び柔道あるいは剣道を隔日で実施。

※ 特修科は端艇及び長距離走を隔日で実施。

② 特別日課

時 刻	実 施 事 項
0 6 0 0	起床
0 6 0 5	起床整列
0 6 2 0	訓練整列 訓練開始
0 7 3 0	訓練終了
0 7 4 0	朝食開始

③ 要領

- ・ 長距離は校内大回りコースと校外コース（峠、神賀橋及び流通センターコース）を組み合わせて実施。（総距離101,344m）
- ・ 端艇はpondから大麗女島と小麗女島の間を通り、太郎坊までの往復コースで実施。

(3) 競技会

- ① スケジュール 1 日目 午前 柔・剣道 午後 端艇
2 日目 午前 駆け足

② 要領

- ・ 柔・剣道 各班対抗
- ・ 端艇 前面海域1,000m（片道500mの往復）
- ・ 駆け足 各班対抗総合タイムレース コース峠 1 周

- ③ 個人賞 葛原賞（柔道）浜本（3） 加藤賞（剣道）池田（1）
駆け足 糸井（3） 室岡（特）



昭和58年度

- (1) 期間 早朝訓練 昭和59年 1 月10日(火)～21日(土)
競技会 1 月20日(金)、21日(土)
- (2) 早朝訓練 前年と同じ。
- (3) 競技会
 - ① スケジュール 前年と同じ。
 - ② 要領
 - ・端艇 前面海域1,200m (片道300mを2往復)
 - ・駆け足 各班対抗駅伝方式
 - ・それ以外前年と同じ。
 - ③ 個人賞 葛原賞 金瀬 (2) 加藤賞 岡部 (1)
駆け足 増田 (2) 堀江 (特)

昭和59年度

- (1) 期間 早朝訓練 昭和60年 1 月11日(金)～26日(土)
競技会 1 月25日(金)、26日(土)
※本年から競技会当日は早朝訓練を実施しなくなった。
- (2) 早朝訓練 駆け足を校内コース周回の時間走とした。それ以外前年と同じ
- (3) 競技会
 - ① スケジュール 前年と同じ
 - ② 要領 前年と同じ
 - ③ 個人賞 葛原賞 藤田 (1) 加藤賞 筒井 (1)
駆け足 小野寺 (3) 神田 (特)

昭和60年度

- (1) 期間 早朝訓練 昭和61年 1 月10日(金)～23日(木)
競技会 1 月24日(金)、25日(土)
- (2) 早朝訓練 本年から3学年は逮捕術と駆け足を隔日で実施 それ以外前年と同じ
- (3) 競技会
 - ① スケジュール 1 日目午前 柔道、剣道及び逮捕術 午後 端艇
2 日目午前 駆け足
 - ② 要領 逮捕術は各班代表2名の演武を採点 それ以外前年と同じ
 - ③ 個人賞 葛原賞 塚崎 (1) 加藤賞 久田 (1) 逮捕術 久留、山本組 (3)
駆け足 松川 (1) 村瀬 (特)

昭和61年度

- (1) 期間 早朝訓練 昭和62年1月9日(金)～22日(木)
競技会 11月23日(金)～24日(土)
- (2) 早朝訓練 前年と同じ
- (3) 競技会
- ① スケジュール 前年と同じ
 - ② 要領 前年と同じ
 - ③ 個人賞 葛原賞 濱口(1) 加藤賞 山下(1) 逮捕術 宮本、中嶋組(3)
長距離走 松川(2)
- ※本年度から「駆け足」が「長距離走」となる。

昭和62年度

- (1) 期間 早朝訓練 昭和63年1月18日(月)～28日(木)
競技会 1月29日(金)、30日(土)
- (2) 早朝訓練 前年と同じ
- (3) 競技会
- ① スケジュール 前年と同じ
 - ② 要領 長距離走が各班代表の合計タイムレースとなる。それ以外前年と同じ
 - ③ 個人賞 葛原賞 田脇(1) 檜川賞 高橋(2) 逮捕術 立岡、中田組(3)
長距離走 松川(3) 山崎(特)
- ※本年度から剣道個人賞を檜川賞と称す。

昭和63年度

- (1) 期間 早朝訓練 平成元年1月13日(金)～26日(木)
競技会 1月27日(金)、28日(土)
- (2) 早朝訓練 前年と同じ
- (3) 競技会
- ① スケジュール 前年と同じ
 - ② 要領 逮捕術の競技方法に演武の他に試合が組み込まれる。それ以外前年と同じ
 - ③ 個人賞 葛原賞 木川(1) 檜川賞 森(2) 逮捕術 中西(3)
長距離走 澤井(2) 今治(特)

平成元年度

- (1) 期間 早朝訓練 平成2年1月12日(金)～25日(木)
競技会 1月26日(金)、27日(土)
- (2) 早朝訓練 前年と同じ
- (3) 競技会
- ① スケジュール 前年と同じ
 - ② 要領
 - ・端艇の競技距離が1,000m(250m 2往復)となる。
 - ・長距離走が個人競争になる。
 - ・それ以外前年と同じ
 - ③ 個人賞 葛原賞 古川(2) 松尾賞 長友(1) 逮捕術 新山(3)

長距離走 佐々木（特）

※本年から剣道個人賞を松尾賞と称する。

平成2年度

- (1) 期間 早朝訓練 平成3年1月10日(木)～23日(水)
競技会 1年24日(木)、25日(金)
- (2) 早朝訓練 前年と同じ
- (3) 競技会
 - ① スケジュール 前年と同じ
 - ② 要領 長距離走が班対抗駅伝方式となる。それ以外前年と同じ
 - ③ 個人賞 葛原賞 遠藤（2） 松尾賞 高嶋（1） 逮捕術 中津（3）
長距離走 新立（特）

平成3年度

- (1) 期間 早朝訓練 平成4年1月9日(木)～22日(水)
競技会 1月23日(金)、24日(土)
- (2) 早朝訓練 前年と同じ
- (3) 競技会
 - ① スケジュール 前年と同じ
 - ② 要領 前年と同じ
 - ③ 個人賞 葛原賞 徳弘（2） 松尾賞 滝田（1） 逮捕術 遠藤（3）
距離走 村山（特）

平成4年度

- (1) 期間 早朝訓練 平成5年1月13日(水)～27日(水)
競技会 1月28日(木)、29日(金)
- (2) 早朝訓練 前年と同じ
- (3) 競技会
 - ① スケジュール 前年と同じ
 - ② 要領
 - ・端艇の競技距離が500m（片道250mを1往復）となる。
 - ・長距離走のコースが校内大回りとなる。
 - ・それ以外前年と同じ
 - ③ 個人賞 葛原賞 野崎（1） 松尾賞 有川（1） 逮捕術 潮平（3）
長距離走 濱田（2）

平成5年度

- (1) 期間 早朝訓練 平成6年1月13日(木)～26日(水)
競技会 1月27日(木)、28日(金)
- (2) 早朝訓練
 - ・長距離走が時間走から走距離を徐々に距離を伸ばす方法になる。第1回小回り3周、第2回小回り4周、第3回小回り4周、第4回小回り3周と大回り1周、第5回小回り3周と大回り2周（総距離17,370m）

(3) 競技会

- ① スケジュール 前年と同じ
- ② 要領
 - ・ 逮捕術の演武がなくなり、試合（種目 徒手対徒手、徒手対短剣）だけになる。
 - ・ 長距離走を班員の上位6名、下位6名の平均タイムで競う
 - ・ それ以外前年と同じ
- ③ 個人賞 葛原賞 大戸（1） 松尾賞 長井（1） 逮捕術 岡村（3）
長距離走 濱田（3）

平成6年度

- (1) 期間 早朝訓練 平成7年1月11日(水)～25日(水)
競技会 1月26日(木)、27日(金)
- (2) 早朝訓練 3学年は逮捕術のみ、特修科は長距離走のみ実施となった。
- (3) 競技会
 - ① スケジュール 第1日目午前 柔道、剣道及び逮捕術 午後 長距離走
第2日目午前 端艇
 - ② 要領
 - ・ 逮捕術が試合種目が徒手対徒手、短剣対警棒、警棒対警棒及び警棒対警杖となる。
 - ・ 長距離走が特修科研修生のための実施で、個人競技となった。
 - ・ それ以外前年と同じ
 - ③ 個人賞 葛原賞 工藤（1） 松尾賞 武智（1） 逮捕術 地村（3）
長距離走 松本（特）

平成7年度

- (1) 期間 早朝訓練 平成8年1月10日(水)～24日(水)
競技会 1月25日(木)、26日(金)
- (2) 早朝訓練
 - ・ 3学年は逮捕術と長距離走、特修科は端艇と長距離走の隔日実施に戻る。
 - ・ 長距離走の走距離が変更になる。

1日目：小回り2周と大回り1周
2日目：小回り4周
3日目：小回り3周と大回り1周
4日目：小回り1周と大回り3周
5日目：小回り3周と大回り2周（総距離19,710m）

 - ・ それ以外、前年と同じ
- (3) 競技会
 - ① スケジュール 1日目 午前 柔道、剣道及び逮捕術。午後端艇
2日目 午前長距離走
 - ② 要領
 - ・ 剣道において団体戦の他、各班代表2名の個人戦が実施される。
 - ・ 長距離走各班対抗の駅伝方式となる。
 - ・ それ以外前年と同じ
 - ③ 個人賞 葛原賞 前田（2） 松尾賞 村山（1） 逮捕術 日浦（3）

長距離走 田中（3）

平成8年度

- (1) 期間 早朝訓練 平成9年1月8日(水)～22日(水)
競技会 1月23日(木)、24日(金)
- (2) 早朝訓練
 - ・長距離走の走距離が変更となる。
 - 1日目：小回り5周
 - 2日目：小回り4周と大回り1周
 - 3日目：小回り4周と大回り2周
 - 4、5日目：小回り5周と大回り2周（総距離24,500m）
- (3) 競技会
 - ① スケジュール 前年と同じ
 - ② 要領 逮捕術の試合の種目に「警杖対長物」が追加され5種目となる。
 - ③ 個人賞 下田賞 松永（2） 松尾賞 中尾（2） 逮捕術 寺口（2）
※雨天のため長距離走競技会は実施せず。
※本年度から柔道個人賞を下田賞と称す。

平成9年度

- (1) 期間 早朝訓練 平成10年1月7日(水)～21日(水)
競技会 1月22日(木)、23日(金)
- (2) 早朝訓練 前年と同じ
- (3) 競技会
 - ① スケジュール 前年と同じ
 - ② 要領 前年と同じ
 - ③ 個人賞 下田賞 森口（1） 松尾賞 岡田（1） 逮捕術 松井（3）
※雨天のため長距離走競技会実施せず。

平成10年度

- (1) 期間 早朝訓練 平成10年1月13日(水)～27日(水)
競技会 1月28日(木)、29日(金)
- (2) 早朝訓練 前年と同じ
- (3) 競技会
 - ① スケジュール 前年と同じ
 - ② 要領 柔道に女子の部が創設される。それ以外前年と同じ
 - ③ 個人賞 下田賞 若林（1） 柔道女子優勝 鈴木（1） 松尾賞 田村（1）
逮捕術 平田（3） 長距離走個人 今野（1）

平成11年度

- (1) 期間 早朝訓練 平成11年1月13日(水)～26日(水)
競技会 1月27日(木)、28日(金)
- (2) 早朝訓練
 - ・長距離走の走距離が変更となる。
 - 1日目：小回り5周と大回り1周

2、3日目：小回り5周と大回り2周

4日目：小回り5周と大回り1周と峠1周

5日目：小回り5周と大回り2周と峠1周となる。(総距離31,900m)

(3) 競技会

① スケジュール

② 要領 剣道個人戦出場者が選択者全員となる。

③ 個人賞 市野賞 鈴木(2) 柔道女子優勝 腰塚(2) 松尾賞 今野(2)
逮捕術 田邊(3)

※本年度から柔道個人賞を市野賞と称す。

平成12年度

(1) 期間 早朝訓練 平成13年1月18日(木)～31日(水)

競技会 2月1日(木)、2日(金)

(2) 早朝訓練 初日の訓練整列の時間が30分早まり0545なる。

(3) 競技会

① スケジュール

② 要領 逮捕術の試合種目が「短刀対警棒」から「徒手対短刀」に変更される。

③ 個人賞 市野賞 垂内(1) 柔道女子優勝 鈴木(2) 松尾賞 木原(2)
逮捕術 若林(3) 長距離走 宮田(1)

3 遠洋航海

昭和57年度第28回 遠洋航海：5月7日～7月12日

(1) 寄港地：東京－ホノルル－サンフランシスコ－カフルイー－ホノルル

専攻科研修生(第28期)49名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官(済生会呉病院、米今義夫先生)を含む〕54名、計103名、総日数67日、航海日数48日、総航程12,335海里

(2) 主な出来事

昭和53年5月4日の開庁記念日の被表彰者としてサンフランシスコの桑港日米会会長渡辺義雄氏、同顧問宮原栄三氏、同顧問古賀 猛氏の3名が長官表彰を受けているが、55年同港寄港時に関係者の中で更に中北加日系人委員会会長池田早苗氏、桑港日米宗教連盟会長石田日天氏、加州日本人慈恵会会長力丸岩輔氏、中北加日系人委員会幹事星野久雄氏の4名について追加表彰の必要がありとされ、本年寄港時、前記3名に長官感謝状、星野氏に大学校長感謝状が伝達された。

昭和58年度第29回 遠洋航海：5月7日～7月15日

(1) 寄港地：東京－ホノルル－シアトル－ヒロ

専攻科研修生(第29期)40名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官(済生会呉病院、米今義夫先生)を含む〕53名、計93名、総日数70日、航海日数51日、総航程13,088.6海里

(2) 主な出来事

5月22日2030日付変更線を通りハワイへ向け航海中の夜間、第3便所において乗組員が船体動揺により転倒し、仰向けに倒れているのが発見された。5月24日ホノルル入港後直ち

に市内のクイーンズ・メディカルセンター救急外来部門にて受診、頭部エックス線撮影の結果、頭蓋骨に骨折等の異常を認めず、受傷時より神経学的異常を認めないため船内で加療、約10日で全快した。

6月23日 1210（日本時間）ヒロ入港2日前、実習生の実父が逝去されたとの電報が入った。本人の希望によりヒロにて下船、ヒロ移民館で手続きを行い、ヒロ発ハワイ航空便にてホノルルに向かいホノルル領事館での手続き後、ホノルル代理店の手配により25日1320（日本時間）JAL便にて帰国した。

昭和59年度第30回 遠洋航海：5月7日～7月11日

(1) 寄港地：東京－ホノルル－サンフランシスコ－カフルイ

専攻科研修生（第30期）29名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（松本治夫先生）を含む〕54名、計83名、（その他、呉－ホノルル間 取材関係者3名乗船）総日数66日、航海日数47日、総航程12,276.3海里

(2) 主な出来事

4年前に海保大本科最初の女子学生として入学し、この年専攻科に進んだ専攻科研修生1名が女性実習生として初めて遠洋航海に参加することになった。これに伴い二管区および八管区から女性海上保安官2名が臨時乗船した。

また、TSSテレビ新広島の取材班3名が、来年開局10周年を迎えるにあたっての特別番組の企画制作として、「こじま」遠洋航海乗船実習取材のため呉－ホノルル間に乗船し、東京出港後実習訓練がスムーズになってきた5月17日頃から活発な取材活動が実施され、実習生は真剣に対応し、乗組員側も可能な限り取材に協力し感謝された。

サンフランシスコでは、米国サンフランシスコ領事館における海保大出身としては初代の佐藤副領事（23期）の行き届いたアテンドを受け、例年にも増して良好に現地日程をこなし、海保大出身副領事の存在の有難さを痛感した。

昭和60年度第31回 遠洋航海：5月10日～7月11日

(1) 寄港地：ホノルル－シアトル－ヒロ

専攻科研修生（第31期）43名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（広田医学部附属病院、川堀勝史先生）を含む〕53名、計96名、総日数63日、航海日数49日、総航程13,082海里

(2) 主な出来事

5月28日 ホノルルでのUSCGとのソフトボール大会は昨年に引き続き実習生、乗組員チームともそれぞれ6－19、4－7で惨敗だった。

6月11日 シアトルは木材と港とボーイング社でもっていると言われているようですが、「こじま」船上レセプションでの、当時特に航空機に興味があり現在は海保のパイロットとなっている29期の垣田実習生とボーイング社の日系リー博士との出会いから、同29期鈴木実習生の協力で生まれた予



S字マークも鮮やかな「こじま」

定外のボーイング社工場の見学に引率教官 1 名と実習生22名が参加、貴重な体験をした。このほか当地では、シアトル歓迎委員会（任意団体）、日系人会および総領事主催のレセプション、ワシントン大学学生との交歓会等が行われた。

6月21日 この年はハワイ日系人の官約移民100周年に当たり、ハワイ島ではヒロ市を中心として常陸宮殿下、同妃殿下をお迎えして百年祭の記念式典、各種行事が盛大に実施された。この行事に合わせて航海訓練所の新練習帆船「日本丸」が行事参加のために入港していた。練習船「こじま」が老齢のためこの百年祭行事への公式参加の榮譽を得られなかったことはとても残念であったが、同船と並んで着岸し、諸行事で多忙にもかかわらず、例年にも増して日系人の方々の温かい歓迎を受けた。

昭和61年度第32回 遠洋航海：4月14日～6月16日

(1) 寄港地：東京－ホノルル－バンクーバー－ヒロ

専攻科研修生（第32期生）46名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（松野 清先生）を含む〕53名、計99名、総日数64日、航海日数49日、総航程13,178.8海里

(2) 主な出来事

4月16日 木下恵介監督による海上保安官にとって心にしみる名画「喜びも悲しみも幾年月」（1957年制作）の第二弾である「新・喜びも悲しみも幾年月」の「こじま」遠洋航海出発シーンの撮影協力を東京湾（横浜沖～東京灯標）で行った。

カナダバンクーバー国際交通博覧会EXPO86〔SAR週間（捜索救助特別週間）5月12日～18日〕行事に巡視船「せつつ」と共に参加することに伴い例年よりも1カ月早く4月14日呉を出航した。

4月29日 この年は昭和天皇在位60年に当たり、ホノルルにおいて同総領事館主催の記念レセプションに船長他9名が参加、USCGとのソフトボール大会は選抜チームで臨んだが善戦むなく今年も勝利を譲った。

7月9日 太平洋の北と南からバンクーバーを目指していた巡視船「せつつ」と練習船「こじま」は、曇り空ながら波静かなデュアン・デ・フカ海峡で早朝0500合流、翌10日バンクーバー港外のイングリッシュ湾で米国およびカナダ両国コーストガード巡視船艇と共に単縦陣を組んで、ライオンゲートブリッジを通過し、整然とバンクーバー（カナダプレイス）に入港した。着岸岸壁はEXRO第二会場のカナダプレイスに当たり、バンクーバー市の象徴的な埠頭を囲むように停泊していた日米加三国の\$隻の巡視船の姿に興味のまなざしが注がれた。実習生にとっては、EXPO特別会場での開会式への出席、救助船パレード及び各種SAR競技の見学並びに海上交通の実情や将来に計画等を展示した各国パビリオンの見学等を通じて、最新かつ幅広い知識を習得したほか、カナダコーストガードの見学（キチラノ基地、ホーバークラフト基地、海上交通センター）、EXPO参加船であるUSCG巡視船「モーゲンソー」見学という貴重な体験となった。

昭和62年度第33回 遠洋航海：4月20日～6月25日

(1) 寄港地：東京－ホノルル－サンフランシスコ－ヒロ

専攻科実習生（第33期生）52名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（金尾元生先生）を含む〕52名、計104名、総日数67日、航海日数48日、総航程12,838.7海里

(2) 主な出来事

5月24日 サンフランシスコのゴールデンゲートブリッジ開通50周年記念行事へ参加。金門橋開通式が盛大に行われた50年前の5月27日は風が強く雲天であったそうだ。今回の記念祝賀行事は「税金に頼らず募金だけでの実現を」との行政当局は公言していたが、多くの行事が資金不足で計画倒れとなり、一時は海のパレードは誰がいつするかなど全くめどが立たない状況にあったそうだ（日米タイムス）。シーパレードにも世界各国の船舶は参加せず、海国日本の練習船「こじま」だけが参加し、米国コーストガードの先導を受けて練習船「こじま」が国旗を翻^{へん}翻とひるがえして威風堂々とパレードに参加したことに日系人の方々は、さすがに礼節を尊ぶ国柄と双手を挙げて萬歳を叫びたい気持ちになったとのことであった（日米時事）。

イ シーパレード参加

5月24日 ゴールデンゲートブリッジからベイブリッジまでの約5海里の間で実施された。本船は、同日1000ピア45を離岸、サンフランシスコ湾口に向かい、1130同湾口沖約2.5海里（ゴールデンゲートブリッジの西約4.5海里）においてシーパレード参加船隊と会合し、米コーストガード巡視船「モーゲンソー」（3,050排水トン）を先導



指揮船として、これに米海軍掃海艇「エクセル」（735排水トン）、同「コンスタント」（735排水トン）、本船、米海軍補給艦「オブライエン」（10,000排水トン）及び米コーストガード巡視艇「エディスト」（30メートル型）の順に船間距離約400メートルの単縦陣で、約5ノットの速力でパレードを行った。途中、実習生は、ゴールデンゲートブリッジ直下0.5海里手前からアルカトラス島南方を通過するまでの約3海里の間登舷礼を行った。このほか、シーパレードには、ヨットを中心とする小型船舶約200～300隻が前述した大型船隊に随行又は付近を遊よくし、パレードを盛り上げていた。

ロ ゴールデンゲートカップボートレース参加

5月24日 ゴールデンゲートブリッジからベイブリッジまでの約5海里の間で行われ、実習生がクルーを編成し、キャデットチームとして特別参加した。参加チームは、コーストガードをはじめとして各地区の予選を勝ち抜いてきた22チームに、「こじま」の実習生チーム（教官2名、実習生11名）を加えた総勢23チームであった。

0800大勢の見物人の見守る中ゴールデンゲートブリッジを一斉にスタートし、途中強風と強い潮流のため各艇とも悪戦苦闘したが、力漕すること約30分、0830棄権した1艇を除き全艇無事ベイブリッジにゴールしました。キャデットチームは、常日頃使い慣れていないステアリングオールのためか、航海中の連動不足による体力低下のためか、男性グループ8チーム中8位、総参加チーム23チーム中21位と、良い成績を挙げることはできなかった。

以上の行事のほか、当日は早朝から深夜まで、ゴールデンゲートブリッジ歩行者天国、航空機によるデモンストレーション飛行、花火大会等盛沢山の行事があり、実習生及び乗組員は、適宜これらの行事を見学しながら米国民と交流し、その国際的視野を広めた。

ハ 米国コーストガードとの協力関係について

この年は、第12管区（サンフランシスコ）と第14管区（ホノルル）を訪問するととも

に、それらの施設見学を実施したが、いずれも極めて友好的かつ協力的であった。第14管区では、毎日、連絡将校が来船し、コーストガードが協力すべき事項の有無を照会してくれた。第12管区では、ゴールデンゲートブリッジ50周年記念シーパレードを実質的に企画立案していたが、シーパレードにおいては、本船の安全を確保するため、本船の両側に巡視艇を随伴させてくれた。また、両管



区とも、実習生全員を招待する司令官主催の歓迎レセプションを開催してくれた。実習生全員を招待するレセプションは、両管区とも昭和59年からであった。これは、昭和57年に巡視船「ざおう」がホノルルを、昭和58年にコーストガード巡視船「マンロー」が我が国を親善訪問し、それぞれSARの実務者会議を開催、昭和58年に巡視船「ざおう」および「いず」がホノルルを親善訪問し、米国コーストガードと海上保安業務に関する意見交換および合同救難訓練を実施、昭和59年には海上保安庁長官がコーストガードの本庁及びサンフランシスコを訪問し、SARに関する意見交換を行うなど近年の日米協力の進展が反映されているものと思われる。

ニ 当庁出身の副領事から受けた支援について

この時、サンフランシスコ総領事館には海保大26期の秋本氏が副領事として勤務しており、表敬訪問、50周年記念行事の打合せ等において常に同行してもらい、積極的かつきめ細かな指導と協力を受けた。本船招待のレセプションについても、招待状の発送はもとより、人選にも綿密なチェックをしてもらった。さらに同氏の御尽力によりダンスパーティーも実施された。当庁出身の副領事の存在の有難さを痛感した。

昭和63年度第34回 遠洋航海：5月10日～7月15日

(1) 寄港地：東京ーホノルルーシアトルーカフルイ

専攻科実習生24名（第34期生）、特別実習生21名乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（日医大救命救急センター、富岡譲二先生）を含む〕51名、計96名、総日数67日、航海日数51日、総航程13,212.1海里

(2) 主な出来事

この年は、海上保安庁40周年に当たり、これを記念して海上保安庁では多年にわたり遠洋航海実習に協力していただいた人々の功績に感謝状を送ることとし、各寄港地において「こじま」船上レセプションの際に感謝状と記念品を12名の方々に伝達した。

感謝状を伝達された方々

寄港地	長 官 表 彰	校 長 表 彰	備 考
ホノルル 5月31日	吉永至圭雄 米澤 薫 沖岩 正 奥山 朝雄 谷口 隆三（ヒロ在住） 5名	若竹 哲夫 石田 貞春 佐伯 清人 平松太郎吉 井川 俊一（ヒロ在住） 山下 敏雄（ヒロ在住） アーサー伊勢本敏久 （ヒロ在住） USCG第14管区司令官 8名	ヒロ在住の校長表彰3名 （井川俊一、山下敏雄、 アーサー伊勢本敏久）に 係る感謝状及び副賞は、 奥山氏に託送した。
シアトル 6月14日		窪田 竹光 松野 世志 USCG太平洋方面司令官 USCG第13管区司令官 4名	USCG太平洋方面司令 官に係る感謝状及び副賞 （校長表彰）は、USCG 第13管区職員に託送した。
カフルイ 6月27日	浜井 保成 1名		
合 計	6名	12名（内託送4名）	

6月14日 シアトルでの「こじま」
船上レセプションにおいてUSCG第13管
区司令官と日系人会名誉会長窪田竹光
氏に三宅海上保安大学校長からの感謝
状と記念品が、西山船長より贈られた。

窪田名誉会長は体の不調により欠席、
代理として日高重日系人会会長が日英
両語で書かれた感謝状と、記念品の壺
とを受け取り、「この上ない光栄であり
謹んで授受いたしました。巡視船「こ
じま」の安全航海並びに乗組員の皆様
のご健康とご多幸を祈り念じます。」と託
されたメッセージを読み上げられた。



シアトルで船上レセプション開催

6月29日 1000東京向けカフルイ出港、午後に無線交信によって北太平洋海域で電波標識
測定を終えた測定船「つしま」がホノルルの沖にすることが判明、本船コース付近というこ
とが判って、できることなら洋上会合しようということになった。2220オアフ島南西端バー
バーズ岬南約10海里で「つしま」と会合、両船とも懐かしさのあまり舷と舷が触れ合わんば
かりに接近し、十六夜の月明かりの中で長期航海の健闘と乗組員・実習生の健康とを祈りつつ
別れた。

平成元年度第35回 遠洋航海：5月9日～7月14日

(1) 寄港地：東京ーホノルルーサンフランシスコーヒロ

専攻科実習生（第35期生）32名、特別実習生9名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官
（日医大救命救急センター、前田稔廣先生）を含む〕51名、計92名、総日数67日、航海日数
49日、総航程12,478.4海里

(2) 主な出来事

10月18日 現地時間午後5時4分にサンフランシスコ湾周辺をマグニチュード6.9の大地震が襲い、270人以上が死亡、650人以上が負傷するなど1906年のサンフランシスコ大地震（死者約700人）に次ぐアメリカ史上2番目の大惨事が発生した。

遠洋航海でお世話になった日系人の方々のご無事と一日も早い復興を祈り、三宅海上保安大学校長よりサンフランシスコ日米会桑田一明会長宛へお見舞いの電報を送った。

平成2年度第36回 遠洋航海：4月16日～6月16日

(1) 寄港地：東京ーカフルイーサンフランシスコーホノルル

専攻科実習生（第36期生）36名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（日医大救命救急センター、辻井厚子先生）を含む〕52名、計88名、総日数62日、航海日数47日、総航程12,374.8海里

(2) 主な出来事

米国コーストガード創立200周年記念祭（5月10日～13日）へ参加

5月9日 米国コーストガード200年祭に参加のため海上保安庁から派遣された茅根首席監察官を団長とする巡視船「みずほ」（羽田のファルコン900も参加）と共にゴールデンゲートブリッジを航過し、1040晴天のサンフランシスコに入港、米海軍軍楽隊および米国コーストガード儀仗隊による出迎えを受けた。同200年祭には、メキシコ、カナダ、ソ連（国境警備隊「ボルガ」）からも各1隻が参加した。

5月12日 200周年記念行事の一つとして、アメリカ（コーストガード、マリン）、ソ連、メキシコ、カナダ及び日本国の5カ国6チームによる対抗救難ボートレースに「こじま」実



レースに奮戦する実習生

習生が参加、他国のチームは大男ぞろいでありの苦戦が予想されたなか、実習生達は一丸となって対応し、コーストガードに次いで堂々2位に入賞した。（当初2,000メートルのコースが用意されていましたが、海上はかなりの強風が吹いていたため500メートルのコースに変更されたのが「こじま」実習生チームに幸いしたのかもしれない。サンフランシスコでは男女を問わずボートレースが盛んで、寒さも忘れて大変な盛り上がりを見せ、レース終了後のパーティーでも「こじま」実習生チームは人気抜群であった。

このほか、米国コーストガード太平洋方面司令官主催レセプション（5月10日）、200年祭参加船間での交換見学および羽田のファルコン900で現地入りした海上保安庁長官による人員点検（5月11日）、総領事主催レセプション（5月12日）、SAR訓練見学および海上保安庁派遣船隊指揮官レセプション（5月13日）、日系人会主催レセプションなど実習生には大変すばらしい体験となった。

平成3年度第37回 遠洋航海：5月21日～7月26日

(1) 寄港地：東京ーホノルルーシアトルーヒロ

専攻科実習生（第37期生）47（1）名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（広大第二外科、渡辺浩志先生）を含む〕53名、計100名、総日数67日、航海日数51日、総航程13,305.9

海里

(2) 主な出来事

7月11日 「こじま」の航海計画上の位置と、メキシコから太平洋を横切ってハワイ島を包み込みゆっくりとカーブを描きながら西の方に伸びた20世紀最後といわれる皆既日食の観測可能帯とがたまたま合致し、コースを僅かに変更するだけで皆既日食を観測できるという幸運にめぐり逢った。船内時間0600少し前、月が次第に太陽を浸食し始め、約1時間後の0647に皆既日食となり約3分間続き、周りが急激に暗くなり、コロナが青白く光ったのちダイヤモンドリングが現れる様は、何か厳粛なものを感じさせ無言のうちにじっと空を眺めていた。



皆既日食

皆既日食の余韻も冷めやらぬ同日夜、実習生企画の星を見る会が開催され、満点の星を眺めつつ星座にまつわる神話に聞き入りながら、改めて宇宙の神秘を感じる夜を過ごした。

また、山下隆之実習生がシアトルのラジオ日本という地元放送局の番組で海上保安大学校の紹介を行った。

平成4年度第38回 遠洋航海：5月19日～7月23日

(1) 寄港地：東京ーホノルルーサンフランシスコーカフルイーー東京

専攻科実習生（第38期生）38名、特別実習生4名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（日本医大付属多摩永山病院、山下照代、黒川 顕先生）を含む〕52名、計94名、総日数74日、航海日数54日、総航程12,410.1海里

(2) 主な出来事

この年は2代目「こじま」による最後の遠洋航海であった。

練習船「こじま」は昭和39年（1964年）の建造以来28年間の長期にわたり、専攻科第10期生に始まり第37期生まで、多くの学生、研修生の夢を乗せハワイ・サンフランシスココース、ハワイ・シアトルコース、ニュージーランド・オーストラリアコース、ハワイ・ロサンゼルスコース等の遠洋航海等を行い、地球30周分に相当する距離を航走してきたが、この年はその長い航跡に有終の美を飾り、よき伝統を現在建造中の新練習船「こじま」に引き継ぐ最後となる遠洋航海であった。



パネルを贈呈する小西船長

寄港地では、これまで長年お世話になった日系人会等へその感謝を込め現練習船「こじま」のパネルを記念として贈呈した。

平成5年度第39回 遠洋航海：5月11日～8月16日

(1) 寄港地：東京ーホノルルーシアトルーパナマ運河ーボストンーパナマ運河ーサンフランシスコ

専攻科実習生（第39期生）45名、特別実習生11名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（山口大学付属病院、上野富雄先生）、海上保安協会嘱託記者（野村康夫氏）を含む〕54名、計110名、総日数98日、航海日数77日、総航程24,094.3海里

(2) 主な出来事

イ 新練習船「こじま」の処女遠洋航海

この年の遠洋航海は、3月11日に就役した新練習船「こじま」による98日間、総航程約24,000海里におよぶ初のパナマ運河通行及び米国東海岸寄港という記念すべき処女遠洋航海であった。全航程を通じ、天候等に恵まれ、静穏な航海であり、船の大型化とも相まって実習生も恒例の船酔いに悩まされることが殆どなく、予定されていた実習、訓練も効果的に実施することができた。

この年は、これまでの主な寄港地であったハワイ、シアトル、サンフランシスコの3都市において旧練習船「こじま」よりも3倍も大きくなった新練習船「こじま」の勇姿のお披露目を行うとともに、初めての米国東海岸寄港地となったボストンでは船内特別公開を実施し、海上保安庁および海上保安大学校の存在を広く紹介した。また、ボストンに隣接のニューロンドン市にある米国コーストガードアカデミーを初めて訪問し、その施設見学を行うとともに、同校学生との交歓会を行った。

ロ 初のパナマ運河通過



パナマ運河

6月17日 パナマ運河を運航するに当たって、本船のパナマ運河通航予定時刻及びバルボア沖錨地到着予定時刻を代理店経由で、Traffic Management Divisionあて打電。本電報に関連して、代理店より本船の「到着時の予定喫水」、「全長（フィート）」及び「全幅（フィート）」の問い合わせがあった。

6月20日 規則上要求されている運河通航通信を代理店経由にてTraffic Management Divisionあて打電、併せ

て上記問い合わせについても回答した。

6月21日 1600頃、コスタリカ沖からパナマ沖に入った。

6月22日 早朝、「こじま」はパナマのバルボア沖に到達した。ペリカンの群れが本船を出迎えた。

規則上要求されている追加情報（Cape Malaの通過時刻及び船の速力）をTransit Operations Divisionあて打電した。

0915 商船錨地の約5海里手前で、Flamenco Island Signal Stationに連絡を取り、本船の錨地について指示を請う。

1000 仮泊。錨地をFlamenco Island Signal Stationに通報した。

- 1010 PCC（パナマ運河委員会）のBoarding Officer 1 名が乗船。公室にて諸手続きを実施。その概要は次のとおり。本船の長さ、乗船者数、医務官乗船の有無等の質問があり、検疫関係の書類を作成。その後、本船の現在の喫水はいくらかとの質問があり、それを基に排水量曲線から現在の排水量を算出の上、運河通航料金を算出。Boarding Officerが喫水を直に確認することはなかった。事前に本庁から外務省を通じて、「こじまは、パナマ運河を武装したコーストガード艦艇として通航する。」旨パナマ政府に連絡していたので、Boarding Officerの言によると、「貴船はWARSHIPなので手続きはこのように簡単なものである」とのこと。手続き終了後、Boarding Officerは明日の通航予定を記載したペーパーを手交した。
- 1045 代理店関係者 1 名（パナマ人）及び在パナマ日本大使館の方 1 名が来船した。
- 6 月 23 日 0615 抜錨。
- 0335 パイロットのフランク氏乗船。「H」及びその上に「15XZ」旗を掲揚。「H」の上に数字旗を掲げる船舶は運河を北航する船舶で、下に掲げる船舶は南航船である。また、数字は運河を通航する順番を表し、「Z」は当該船舶が通航に関し優先船舶であることを表している。
- 0734 作業員10名乗船。6 名が前部、4 名が後部。
- 0810 ミラフローレス水門西側下段に入渠。前部は両サイドのパナマチョックから機関車のワイヤーを 1 本ずつ計 2 本、後部は船尾のパナマチョックからワイヤーを 2 本、前後部合わせて合計 4 本のワイヤーをとった。水門内の移動に使用した機関車は 4 台で、当該機関車で水門内の移動及び停止並びに係止を行った。本船の機関は、自船の行足をつける程度の使用であった。以後、全ての水門において同じであった。
- 0902 同水門上段を出渠。なお、全ての水門の出入りは、コーストガードの砕氷船「ボーラー・シー」号と同時に実施された。
- 0924 ペドロミゲール水門西側入渠。
- 0955 同水門を出渠。作業員10名下船。ゲイラード・カットに入る。この幅約 200メートルという極めて狭い掘り割りのなかで、途中、数隻の大型貨物船と行き合う。
- 1135 ガツン湖航過。
- 1210 ガツン水門から163度、0.5海里にて時間待ちのため仮泊。
- 1439 作業員10名乗船。配置は午前と同じ。
- 1450 抜錨。
- 1524 ガツン水門東側上段に入渠。
- 1632 同水門下段を出渠。
- 1635 作業員10名下船。
- 1656 クリストバル港内にてパイロット下船。「H」及び「15XZ」旗を降下、在パナマ日本大使あてお礼の電報を打電した。

無事にパナマ運河を通過し終えた本船は、23日夕刻、カリブ海に入り北東に針路をとった。

平成 6 年度第40回 遠洋航海：5 月18日～8 月22日

- (1) 寄港地：東京ーサンフランシスコーパナマ運河ーボストンーロンドンーマルセイユースエズ運河ーシンガポール

専攻科実習生（第40期生）37名、特別実習生13名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（山口大学医学部、中島一毅先生）を含む〕52名、計102名、総日数97日、航海日数78日、総航程26,959.0海里

(2) 主な出来事

イ 初の世界一周遠洋航海

太平洋の無寄港踏破、流水が異常南下した大西洋、南西の夏期季節風が吹き荒れるインド洋の横断、パナ

マ、スエズという世界の二大運河の通過、テムズ川という日本では経験できない河川の航行、船舶が輻輳するドーバー海峡、海賊が出没するマラッカ海峡の通航、厳しい国際情勢の一端をも垣間見ることができた内戦激しい緊迫したイエメン・アデン沖合海域の航行、従来の米国に加え、イギリス、フランス、シンガポールへも寄港、米国でのコーストガード施設の見学、コーストガードアカデミー学生との交流、英国でのIMO、ロイヤル・ネイバル・カレッジ、国立海洋博物館、グリニッジ天文台、ロンドン塔等の見学、フランスでのマルセイユ港湾施設の見学、シンガポールでの港湾施設の見学、各種レセプション、海事関係の国際機関IMOが所在するロンドンでは特別派遣された大学校長の主催による船上レセプション、英国、フランスでの海軍派遣連絡将校によるきめ細かなサービス、海上保安庁出身在外公館等勤務者の勇姿とその心強いアテンド等、この世界一周という遠洋航海は正に世界を見た遠洋航海であり、若い実習生にとってはまたとない貴重な体験であった。

新練習船「こじま」のこの世界一周の遠洋航海は、諸先輩方の長年の努力の上に生まれ、3ヶ月以上という長期にわたる遠洋航海を支えた多くの方々の助力の下に実現した記念すべき初めての世界一周遠洋航海であった。



テムズ川の「こじま」

ロ 初のロンドン入港

7月8日 0200 ドーバー海峡に入航、左舷側に見えるライトアップされたドーバーの白壁が船橋内にも幻想的な雰囲気をもたらした。

0900 NE SPITEにてパイロットを乗船させテムズ川に向かう、可航幅が極めて狭く、大きく曲がりくねり多数の航行船舶が行き交うテムズ川を約40マイル遡航、途中で行き合った英国海軍フリゲート艦並びにロイヤルネイバルカレッジ及びH.M.Presidentに対し登舷礼を行い、敬意を表した。

1600 乗組員・実習生一同タワーブリッジがはね上がるのを驚きと感激で見つめながら、重永大学校長が出迎える英国巡洋艦ベルファストに左舷付け、たくさんのロンドンっ子が手を振って「こじま」を歓迎していた。テムズ川の流れは早く、係留時には3～4ノットの流れがあった。

7月14日 0600 英国海軍レインズ中佐、ヴァクスター大尉、日本海難防止協会ロンドン事務所金丸所長らの見送りを受けて、タグ2隻に曳かれつつ、後進でタワーブリッジを航過した後に反転し、テムズ川を下った。

1400 霧のドーバー海峡を抜け、再び大西洋へ出た。

ハ 初のスエズ運河通過（軍艦ではなく政府公船扱いで通航）

7月28日 0500 ポートサイド沖に仮泊

1000 ハーバーパイロットを乗船させ抜錨

1100 ポートサイドへ入港ブイ係留、スエズ運河通航に関する手続きを行う一方で警備班が配置につき、スエズ運河通航体制へ移行、ブイ係留中にはポートサイド名物のエジプト民芸品等のみやげ物を積んだ小舟が「こじま」の周囲を埋め、売り子のかたこと英語での怒鳴るような売り込みの声の日没まで響きわたった。

7月29日 0130 キャナルパイロット、ボートマン、ライトマン乗船

0215 南航第一船団の1番船としてスエズ運河へ向け航走開始

0316 Sweet Water Canal を抜けてスエズ運河へ入航

0700 Lake Timasahにてキャナルパイロット交代

0900～1130 時間調整のためグレートビター湖仮泊

1340 PORT TEWFIKにてハーバーパイロットに交代、ボートマン、ライトマン下船

1405 NEW PORTROCK航過、ハーバーパイロット下船

1430 スエズ運河通過、エジプト国旗降下、食事を取る間もない航海当直や、焼けつくような甲板の上での警備を終え、疲労困ぱいといった乗組員の表情にも、何事も無くスエズ運河を通過できた安堵感がうかがえた。



スエズ運河を通過する「こじま」

ニ その他

本遠洋航海から船舶代理店が従来の日本郵船(株)系列からインチケープ・ SHIPPING・サービスグループに変わった。

平成7年度第41回 遠洋航海：5月16日～8月21日

(1) 寄港地：東京－ホノルル－パナマ運河－ボストン－リスボン－リボルノ－スエズ運河－シンガポール

専攻科実習生（第41期生）38名、国際航海実習課程実習生12名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（山口大学医学部、溝上浩士先生）を含む〕52名、計102名、総日数98日、航海日数74日、総航程25,053.2海里

(2) 主な出来事

この年は、日本との長い交流の歴史を持ち、日本人になじみの深いポルトガルリスボン及びイタリアのリボルノに初めて寄港することとなった。

練習船「こじま」東京停泊の折りに来日したクラメック米国海岸ガード長官（1961年米国海岸ガードアカデミー卒業）による練習船「こじま」の視察および講演（5月19日）が行われた。初めての寄港地であるポルトガルリスボンでは三宅元海上保安大学校長



USCG長官の講演

(7月8日) および当庁より出向中の金丸日本海難防止協会ロンドン事務所長(本科19期)による講演(7月12日)、同じく初めての寄港であるイタリアのリボルノではイタリア海軍大学校施設の見学の他に、山川在ノルウェー日本大使館一等書記官(本科22期)による講演(7月18日)といった海外で活躍する当校卒業生たちとの新たな出会いもあった。

7月25日1423、クレタ島西方約90海里にてギリシャの海岸局から「衛星EPIRBから発射された遭難信号を受信した。」という情報を受信し直ちに現場に急行、1610現場に到着、2時間あまり捜索を行ったが手がかりがなく、その旨をRCCアテネに通報するという事件があった。後刻、同RCCより捜索協力についての感謝とともに、先の遭難警報に係る緊急放送をキャンセルする旨の連絡を受けたが、この実際に遭遇した海難情報への対応として捜索救難活動等を行ったことは、現場赴任を間近に控えた学生にとって貴重な体験となった。

練習船「こじま」の遠洋航海には、昭和33年から乗船者数に余裕がある場合にはI種採用者及び特修科出身者を制度的には曖昧なまま特別実習生として乗船させてきたが、新練習船「こじま」の就役に伴い、平成4年度の教育訓練調査会において、「専攻科のみならず現場職員についても国際航海に参加させることにより、当庁職員全体の国際航海に必要な運行技術の向上を図る必要がある。」との報告がなされ、この年より大学校研修科の「国際航海実習課程」研修として制度化された。

平成8年度第42回 遠洋航海：5月17日～8月26日

- (1) 寄港地：東京ーサンフランシスコーパナマ運河ーニューロンドンーニューヨークーロンドンーピレウスースエズ運河ーシンガポール

専攻科実習生(第42期生)37名、国際航海実習課程実習生12名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官(山口大学医学部、米村 浩先生)を含む〕50名、計99名、総日数102日、航海日数80日、総航程26,883.4海里

- (2) 主な出来事

8月10日 0535スリランカ南端を通過しシンガポール向け航海中の波高いインド洋において、ノルウェーのRCC STAVANGER(海事衛星経由の救助要請情報等を統括)から「パナマ船籍のタンカー「DIAMOND DREAM」号(137,712トン、太平洋海運(株)管理船、三菱石油油田用船)で急患が発生し医療援助を要請している。」との情報を入手、D号の位置が3時間後に会合できる距離であったため、直ちにD号向け急行しインマルサットにより患者の容態等を聴取しつつ0820会合、直ちに搭載艇を降下し、医務官(山口大学医学部整形外科米村 浩先生)、元特救隊隊長宮下首機士他乗組員2名を派遣、うねり高低差6メートルのなかD号のコンビネーションラダーに乗り移り、0843～1040までの間横浜メディカルセンターの女性内科医と電話連絡を取りつつ患者(フィリピン人調理師男性30歳)の診察(虫垂炎と局限性腹膜炎を併発)及び薬の投与等の医療援助を行った。1038 D号が一番近い港のあるスリランカのコロombo向け、本船はシンガポール向け航走を再開するという洋上救急事件に遭遇し、海上保安業務の崇高さと厳しさを目の当たりにすることとなった。2日後の8月12

日D号から患者を無事に病院に移送したとの連絡があった。今遠洋航海では、太平洋、大西洋、インド洋全ての海域で荒天に遭遇し、最後はシンガポール出港後台風にまで恵まれるという、実習生にとっては大きな試練でしたが、海上保安の職務に取り組む強靱な精神力を養うことができた実り多い航海であった。

この年は特に初めて米国コーストガードアカデミー（USCGA）のあるニューロンドンのステートピアに入港することができ、2日間にわたりUSCGAの学生及び職員と従来とは比較にならないほど親密な交流ができた。また、初めての寄港地であるギリシャのピレウスでは、MRCCピレウス施設を見学するとともに、古代ギリシャの遺跡を訪れ、その偉大さを目にすることができた。

その他、米国でのUSCG施設、国連本部施設の見学、英国でのIMO施設見学及び航行安全小委員会会議の傍聴、英国海軍大学校及び旧グリニッジ天文台施設、ドーバーVTS施設の見学、シンガポールでの海事港湾庁施設見学、実習としてロンドン及びアテネの市内見学に加え、海上保大学校卒業生で在サンフランシスコ日本総領事館山下副領事（海保大36期）、日本海難防止協会ロンドン事務所大和所長（海保大22期）による講演が行われた。



IMO施設見学

平成9年度第43回 遠洋航海：5月14日～8月22日

- (1) 寄港地：東京ーホノルルーパナマ運河ーニューヨークーニューロンドンーロンドンーナポリースエズ運河ーシンガポール

専攻科実習生（第43期生）39名、国際航海実習課程実習生10名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（山口大学医学部、小倉 寛先生）を含む〕40名、計89名、総日数101日、航海日数79日、総航程26,430.1海里

(2) 主な出来事

6月25日 0015からロングアイランドのピンタック岬南約19海里付近にて、時間調整のため漂泊、0440ニューロンドン向け航走を開始、0555ピンタック岬沖にてシーパイロットが乗船、テムズ川を遡航、0830ニューロンドン港第6号ブイ付近にてドッキングパイロットが乗船、0851跳ね上がったアムトラックレールロード橋を航過するとうっそうとした緑の中にレンガ色の校舎群が美しく映えるコーストガードアカデミー（USCGA）が姿を現した。0920 USCGA職員および学生多数の出迎えるUSCGA「イーグル」号棧橋に実習生が登舷礼で応えながら右横着、2日間にわたるUSCGA施設の見学及び同校学生との交流、6月27日 1600 雲一つない快晴の青空の下、爽やかな北北西の風が吹き抜ける中、USCGA学生との交流プログラム等で大変お世話になった連絡将校リオーダン少佐ほか数名のコーストガード職員の見送りを受け「イーグル」号棧橋を後にした。

8月6日 スリランカとスマトラ島の間を順調に航海し続けていた1030頃、反航して行く日本籍タンカーに情報収集のためVHFでコンタクトを取ったところ、同船には、昨年度の遠洋航海で練習船「こじま」が腹膜炎を起こした乗組員に医療援助を行ったタンカー「DIAMOND DREAM」号の一等航海士が乗船していることが判明した。同一等航士の話に

よると当時患者であったフィリピン人コックは、練習船「こじま」医務官の処置を受けたのち、スリランカのコロomboに搬送され、無事一命を取り止め、現在は同じくこのタンカーに乗船し元気に職務についているとのことであり、昨年は大変お世話になったとお礼があった。昨年と同じインド洋で再会するという奇遇を感じるとともに爽やかな気分となった一日であった。

(この年度からNTT長崎無線のモールス無線電信によるサービスが廃止され、国際方式狭帯域直接印刷電信(NBDP)のみとなった。)

8月13日 シンガポールでの船長主催の船上レセプションに、中国からの帰りに立ち寄った作家で日本財団会長の曾野綾子御夫妻が出席し、多くの実習生たちと歓談した。

平成10年度第44回 遠洋航海：5月13日～8月21日

(1)寄港地：東京ーサンフランシスコーパナマ運河ーニューヨークーニューロンドンーロンドンーリスボンーピレウスースエズ運河ーシンガポール

専攻科実習生(第44期生)44名、国際航海実習課程実習生9名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官(山口大学医学部、藤本英明先生)を含む〕52名、計105名、総日数101日、航海日数77日、総航程25,989.9海里

(2) おもな出来事

6月2日 この年は海上保安庁発足50周年という記念すべき年に当たっており、サンフランシスコでの船長主催レセプションにおいて海上保安庁長官からの感謝状を米国海岸ガード太平洋方面司令官カード中將に伝達したほか、5カ国7都市の各寄港地においてレセプション等を通じて発足50周年を迎えた我が国の海上保安庁を海外の方々に理解してもらうことができた。

また、日本と歴史的にも深いつながりのある太陽の国ポルトガルのリスボン



EXPO98でのもちつき

で「海洋・未来への遺産」をテーマにしたバスコ・ダ・ガマ生誕500周年記念という意義深い年に開催される国際海洋博覧会EXPO98ジャパンウィークに公式参加した。

7月13日 0655ジャパンウィーク最初の日本船としてEXPO98ボートショー会場Ponte do Cabo Roivoに係留、1120～1140リスボン博日本館による入港歓迎式典が行われ、7月14日及び15日「JMSA 50th Anniversary」の横断幕を背景に40度近い猛暑の中一般公開を実施し、2日間で約4,000人もの来船者を数えた。7月16日1030～1330には現地ポルトガルの親子を招いて、リスボン博日本館の女性通訳たちの助けも借りながら親子で出来る実際に役立つ救命法、搬送法などの体験教室、お正月やお祭りのときなどめでたいときに行う日本の伝統的な行事のひとつである「もちつき」を行い、日本文化と海上保安庁の紹介を行った。

平成11年度第45回 遠洋航海：5月18日～8月23日

(1) 寄港地：東京ーホノルルーパナマ運河ーニューヨークーニューロンドンーサザンプトーリボルノースエズ運河ーシンガポール

専攻科実習生（第45期生）40名、国際航海実習課程実習生6名乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（山口大学医学部、上野 隆先生）を含む〕48名、計94名、総日数98日、航海日数77日、総航程25,754.9海里

(2) 主な出来事

イ ニューロンドンで初めての船長主催船上レセプション

6月28日 0830、対岸にコーストガードアカデミー（USCGA）を望むことができるニューロンドン合衆国海軍の潜水艦基地ピア2に右舷横着、実習生はUSCGA学生との交流プログラムを実施し、USCGA学生の案内により校内の施設見学、「こじま」に招いての船内見学を実施、1800からUSCGA幹部及び学生、在ボストン日本総領事等を招待し、ニューロンドンで最初の船長主催レセプションを催した。実習生とUSCGA学生とがテーブルを囲みお互いの校内生活等について熱の入った議論を行う風景も散見され、予想以上に交流を深めることができた。ニューロンドンでこのようなレセプションが行われるというのは初めてのことで思いがけない好評を得た。

6月29日 午前中、実習生は前日に引き続き交流プログラムの一環として、USCGA学生の指導により合同セイリング・アクティビティを行い、校内グラウンドにおいて昼食を共にするとともに腕相撲やプレゼント交換を行うなど楽しいひとときを過した。

ロ 初の英国サザンプトン入港

この年は、氷山に衝突しSOSを発して沈没した豪華客船「タイタニック」号が出港した港で有名な英国サザンプトンに寄港した。前の年「こじま」が入港したロンドンのドックランドにおいて「こじま」の目の前で二隻のタグボートに引かれた出航船がドックランドの狭い通路を通過する際に岸壁に衝突、破口が生じ、修理のため引き返すという事故が発生し、代替の安全な港を求めての寄港であった。



油防除資器材の見学

サザンプトンでは7月8日1030、当地のMaritime and Coastguard Agencyの専門家2名から同エージェンシーの組織、海洋汚染防除および船舶検査等の活動内容に

ついて講義をうけたが、講義はスライドを使用した丁寧で分かりやすいもので、当庁とは組織形態、業務内容等が異なることから、実習生からも活発な質問が出された。午後からは、サザンプトン市内にあるOil Spill Response Limitedを訪問、会社の概要説明を受けた後、同社が保有する油防除資器材の見学を実施した。

ハ 二度目のリボルノ

7月22日、二度目の寄港となったイタリアのリボルノにおいてイタリアコーストガードおよびイタリア海軍大学校の施設見学を実施、海軍大学校では歴史の深さに感心するとともに、その校内生活の厳しさに驚いた。

平成12年度第46回 遠洋航海：5月9日～8月17日

- (1) 寄港地：東京ーサンフランシスコーパナマ運河ーニューヨークーニューロンドンーロンドンーピレウスースエズ運河ーシンガポールーマニラ

専攻科実習生（第46期生）42名、国際航海実習課程実習生5名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（山口大学医学部、角原敦夫先生）を含む〕49名、計96名、総日数101日、航海日数78日、総航程26,407.2海里

(2) 主な出来事

イ カリフォルニア半島沖でのEPIRB遭難信号

サンフランシスコからパナマ向け航行中の5月30日1754船内時間、インマルサット電話でUSCGより121.5MHz/EPIRB発信情報の確認要請があり、「こじま」は直ちに針路を変更し、発信現場（N27-04, W116-04）へ急行、船内時間2130現場に到着、付近海域を目視及びレーダーにより搜索するも船影を認めず、2145にUSCGより情報収集打ち切りの連絡が入り、確認作業を終了し、パナマ運河向け航走を開始した。その後、メキシコ中央部バハ（Baja）の沖合50海里的海上で発信されたと思われるこの121.5MHz/EPIRB発信情報のアラメダ搜索救助調整本部（RCC）からの調査要請について、実習生が施設見学を行ったUSCG第11管区のローレンス司令官より、練習船「こじま」の搜索により海難の事実がないことが確認されたことを、「こじま」乗組員及び実習生の行動は海上における伝統的な崇高な行為として賞賛するとともに、この事案が日米の海上保安協力を象徴するものとして実習生の心に深く留められることを願う旨のメッセージが届いた。

ロ 海上自衛隊練習艦隊との大西洋での洋上会合

前年秋に練習船「こじま」と海上自衛隊練習艦隊の幹部の相互訪問があり、その際に来年の遠洋航海は練習船「こじま」が東回り、海上自衛隊練習艦隊が西回りで世界一周をするが、ちょうど大西洋で行き違うことになり、「洋上で会合しましょう」という双方の話から始まったものであった。

氷山が北緯41度まで南下しているとの情報で変更調整を行いながら、6月24日午後、練習船「こじま」は、同じく日立造船舞鶴工場で平成7年1月に建造された練習艦「かしま」および護衛艦「ゆうぎり」と、ちょうど日本の真裏にあたる大西洋の真ん中で洋上会合、お互いを確認すると相互に近寄り、「こじま」を「かしま」と「ゆうぎり」が挟む形でランデブー航行を行った。また、奇遇なことに練習船「こじま」の前田俊之実習生の実兄が練習艦「かしま」に実習幹部として乗船しており、兄弟が大西洋で出会い、エールを交換するという場面もあった。

ハ 初めてのマニラ入港

今年は、ミレニアム、2000年という20世紀最後の記念すべき遠洋航海であった。近年は近隣諸国、特にアジア諸国との海上保安協力が進んでいるが、こうした状況の中で、アジア諸国のこれまでの寄港地であるシンガポールに加えて、フィリピンのマニラに寄港することとなった。マニラには平成11年11月に巡視船「おおすみ」が三国合同流出油防除総合訓練のために入港していたが、フィリピンはコレラ汚染国にも指定されており、初めての寄港は何かと心配なものであった。しかし、当庁出身でフィリピン沿岸警備隊に派遣されている永山氏（本科28期）の心強い支援の下で、フィリピン沿岸警備



バスケットボールでの交流

隊（PCG）の施設見学、フィリピン沿岸警備隊とのスポーツ交流などの関係行事を成功裏に行い、実り多い寄港とすることができた。

平成13年度第47回 遠洋航海：5月21日～9月2日

- (1) 寄港地：東京ーサンフランシスコーパナマーパナマ運河ーニューヨークーニューロンドンーサザンプトンーナポリスエズ運河ーシンガポール

専攻科実習生（第47期生）38名、乗組員〔管区派遣者および派遣医務官（山口大学医学部、河岡徹先生）を含む〕48名、計86名、総日数101日、航海日数79日、総航程25,381.2海里

(2) 主な出来事

イ 出港日間近の寄港地変更

平成13年度遠洋航海実習は東京を出港しホノルルに向かう予定であったが、「こじま」の排水設備がハワイ州の州法に適合しなくなったことが現地代理店を通じて判明したため、急遽5月1日にホノルル寄港をサンフランシスコに変更した。変更の際は、サンフランシスコ総領事館に副領事として勤務している本科38期の辰巳屋氏に尽力いただき、支障なくサンフランシスコに入港することができた。

ロ 初めてのパナマ入港

例年パナマ運河は通過するのみであったが、1999年12月31日正午をもってパナマ運河及び運河地帯が米国よりパナマに完全返還されたことを機に、在パナマ日本国大使館藤島大使の要請もあって、パナマ・ロッドマンに入港した。主な行事としては、工藤船長によるアマドール・パナマ共和国初代大統領胸像への献花、パナマ海上保安隊施設見学及びパナマ海上保安隊職員とのスポーツ交流（ソフトボール）などの関係行事を行い、実り多い寄港とすることができた。



Ⅲ 学生・研修生に対する主な講演

学生祭の講演会の変遷

年月日	回	肩 書 き	氏 名	題 目	場 所
S 54. 6 . 1	29	元海軍兵学校教授	平賀 春二	船乗り風物詩	三ツ石山講堂
S 55. 5 .28	30	イラストレーター	柳原 良平	私と船	呉市市民会館
S 56. 5 .29	31	学者	糸川 英夫	これからの日本	呉市市民会館
S 57. 5 .28	32	エッセイスト	外山滋比古	ことばと人間	情操教室
S 58. 5 .27	33	作家	阿刀田 高	私の発想法	呉市市民会館
S 59. 5 .28	34	海洋作家	高橋 泰邦	私と海洋文学	情操教室
S 60. 5 .27	35	ジャーナリスト	谷畑 良三	ソ連及びロシア人についての体験的考察	情操教室
S 61. 5 .24	36	作家	沢木耕太郎	異国の青春	講堂
S 62. 5 .22	37	医師、登山家	今井 通子	山で学んだリーダーシップ	情操教室
S 63. 6 . 3	38	映画評論家	水野 晴郎	水野晴郎 P R O F I L E	情操教室
H 1 . 5 .29	39	脚本家	倉本 聡	北海道で考える	講堂
H 2 . 5 .30	40	作曲家	都倉 俊一	国際社会と日本人	呉市文化ホール
H 3 . 6 . 3	41	元プロ野球監督	古葉 竹識	私の野球人生	情操教室
H 5 . 5 .23	43	大学教授	北野 大	海洋汚染と地球環境	情操教室
H11. 6 .13	49	元内閣安全保障室長	佐々 淳行	危機に対しての対処	呉市市民会館

笹川基金関連講演会講師一覧

※講演会としての形式が確立したのは、平成7年度以降である。

年度	講演日	氏 名	所 属 等	演 題
7	10.13	三谷 徹	科学技術庁 角田宇宙推進技術センター ラムジェット燃焼研究室長	成層圏から宇宙へ ースクラムジェットウェーブ・ライダー
	10.27	高田 好胤	奈良薬師寺貫主	日本のこころ

※高田氏講演は若葉会大学校支部との共催の形で、呉市市民会館で実施した。
(第1期卒業生以来40周年記念として呉市民に感謝する趣旨)

8	11.29	西丸 與一	横浜市総合保健医療センター長	海と法医学
	12.19	谷 弘	海洋科学技術センター特任参事（元 国際原子力機関査察部長）	国際化と国際公務員
	1.30	瀬川 爾朗	東京大学海洋研究所教授	これからの海の科学
9	12.5	千葉 一夫	三井物産(株) 顧問 （元 駐英大使）	世界の中の日本
	3.19	岸田 博	東京農業大学教授	こころ豊かな人間関係を創る
10	10.22	有馬 龍夫	日本政府代表 早稲田大学 政治経済学部教授、三菱商事 特別顧問	最近の国際情勢
	12.17	野本 謙作	大阪大学名誉教授 外洋帆走協会顧問	プレジャーボートの実態と特質－航行安全、海難救助との関連において－
	2.22	小笠原臣也	呉市長	21世紀に向かって呉市の方向と皆さんへの期待
11	5.14	麻生 利勝	弁護士・法学博士 麻生・田中法律事務所 慶応義塾大法学部非常勤講師	社会と海上保安
	10.19	曾根 威彦	早稲田大学法学部 法学博士	刑法と倫理
	6.13	佐々 淳行	佐々事務所 元内閣安全保障室長	これから起こりうる危機－過去の事件から学ぶ－
	12.10	千 宗室	裏千家家元 平成9年度文化勲章受賞	平常心是道
12	11.9	北川 敬三	海上自衛隊第一術科学学校	アナポリスで学んだこと
	12.1	神倉 力	財海上保安協会新聞部長	誉ある地位を築くために－体験から見た広報の重要性－
	3.14	月坂 和宏	マツダ病院 整形外科医	スポーツ医学について
13	11.26	白倉 茂生	中国電力(株) 取締役社長	情報化社会に想う
	12.10	福井 大海	広島法務局所属公証人 （元 最高検察庁検事）	責任の所在
	12.12	兒玉 憲一	広島大学大学院教育学研究科教授	チューターによる学生相談のために